

明治廿七年十月 (非賣品)

農報

第貳號

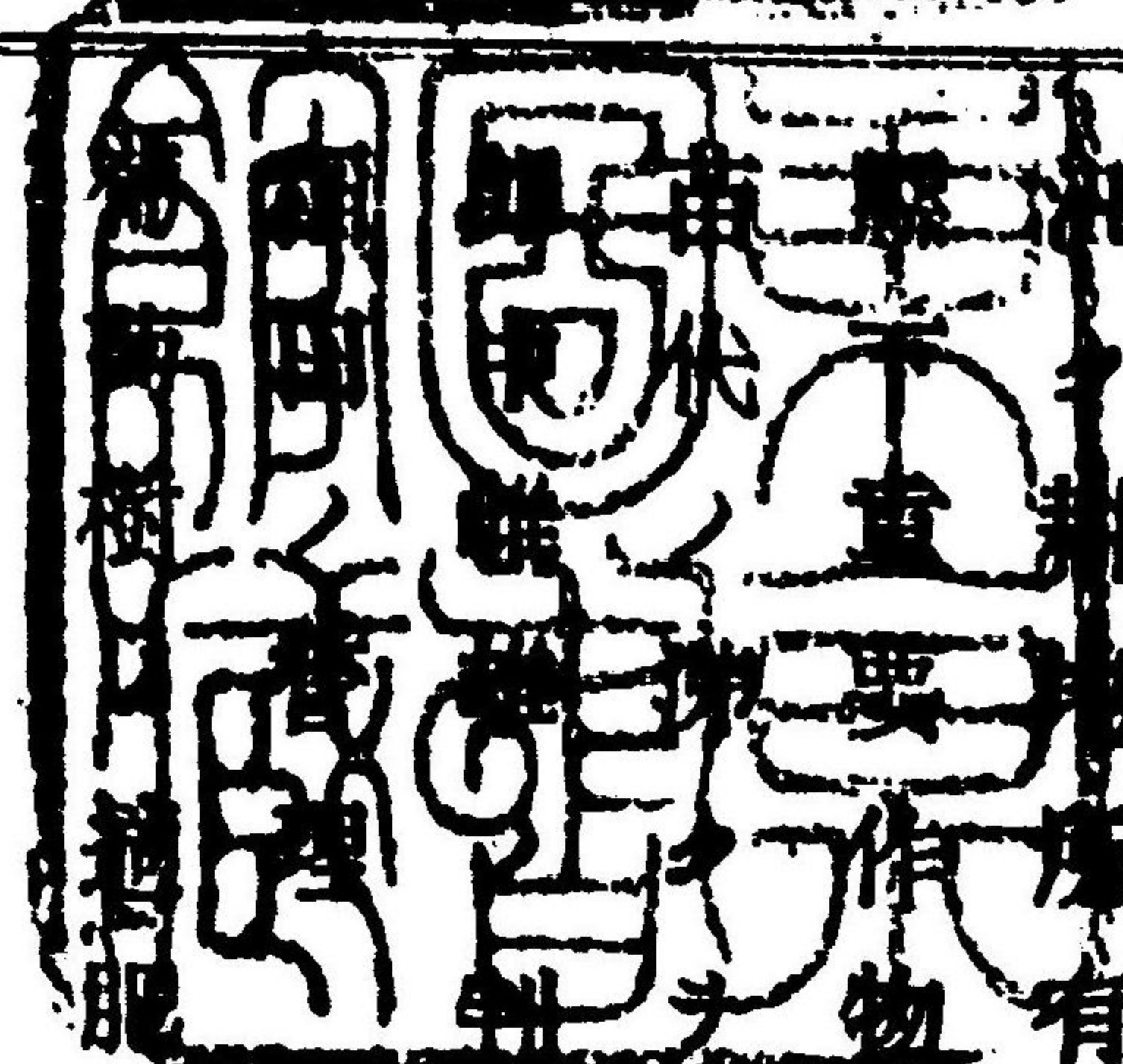
出雲有志地主農辰談會

農報 第貳號

目次

地主ト小作人トノ關係ニ就テ(承前)	一
農事試驗場ノ稻作	六
耕作地所有者ニ勸告ス	九
重要作物害虫要録(第二)	十一
防夕法	十五
別	十六
肥料及施肥法	十六
田畔蚯蚓驅除法	十九
灌溉汲水器使用	二十
土地整理ノ舉既ニ隣縣鳥取ニ及ヒタリ	二十一

農報 第貳號



組合規約ハ新刊農書紹介ノ所誤ラ現在ノ所ヘ掲載ス

農報第二號

出雲國有志地主農談會意字支會規約	五十六丁
出雲國有志地主農談會能義支會規約	五十七丁
出雲國有志地主農談會仁多支會規約	五十八丁
出雲國有志地主農談會大原支會規約	六十丁
島根郡四川津農事組合規約	六十一丁
出雲國有志地主農談會飯石支會規約	六十三丁
出雲國有志地主農談會出雲郡支部會規約	六十四丁
出雲國有志地主農談會楯縫支部會規約	六十五丁
出雲國有志地主農談會神門支部會規約	六十七丁
出雲國有志地主農談會松江支部會規約	六十八丁

農報第二號

泥龜飼養法	二十一丁
種苗配付	二十三丁
簡易農學校規程	二十六丁
農事講習所規程	二十八丁
實業教育費國庫補助法	三十一丁
島根縣米穀作付段別及收穫石高概算表	三十四丁
島根縣麥作付段別及收穫石高概算表	三十九丁
牡牛去勢ニ就キテ勸誘	四十五丁
第七回農產品評會開設	四十六丁
新刊農書紹介	四十八丁
島根郡本庄村私立立米品評會規則	四十九丁
島根郡本庄村公立立米共進會規則	五十丁
出雲有志地主農談會規約	五十三丁
出雲國有志地主農談會島根支會規約	五十五丁

農報第二號

泥龜飼養法	二十一丁
種苗配付	二十三丁
簡易農學校規程	二十六丁
農事講習所規程	二十八丁
實業教育費國庫補助法	三十一丁
島根縣米穀作付段別及收穫石高概算表	三十四丁
島根縣麥作付段別及收穫石高概算表	三十九丁
牡牛去勢ニ就キテ勸誘	四十五丁
第七回農產品評會開設	四十六丁
新刊農書紹介	四十八丁
島根郡本庄村私立玄米品評會規則	四十九丁
島根郡本庄村公立玄米共進會規則	五十丁
出雲有志地主農談會規約	五十三丁
出雲國有志地主農談會島根支會規約	五十五丁

島根郡西川津農事組合規約ハ新刊農書紹介ノ次ヘ掲載スヘキノ所誤ラ現在ノ所ヘ掲載ス

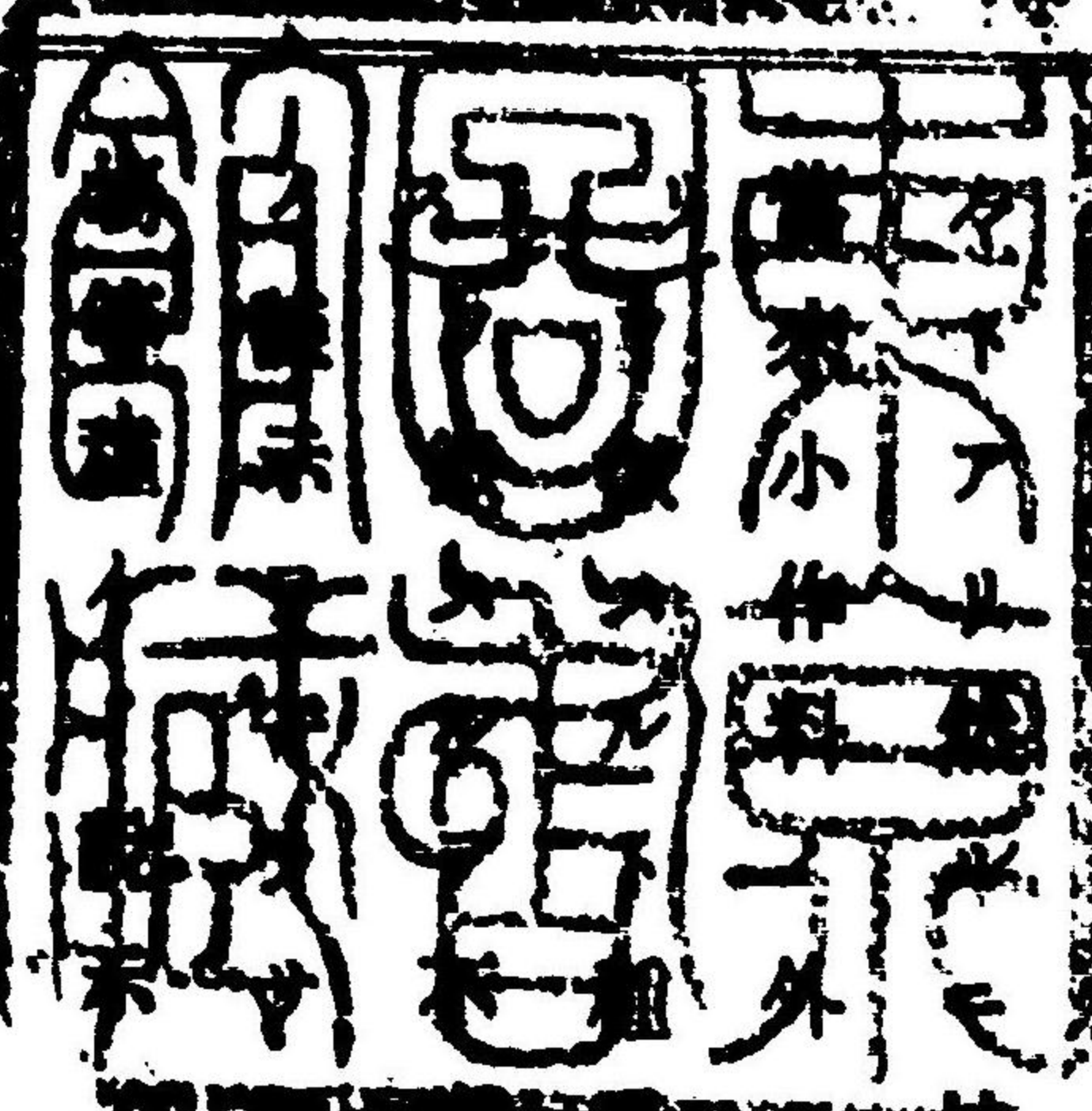
農報第二號

出雲國有志地主農談會意宇支會規約	五十六丁
出雲國有志地主農談會能義支會規約	五十七丁
出雲國有志地主農談會仁多支會規約	五十八丁
出雲國有志地主農談會大原支會規約	六十丁
島根郡西川津農事組合規約	六十一丁
出雲國有志地主農談會飯石支會規約	六十三丁
出雲國有志地主農談會出雲郡支部會規約	六十四丁
出雲國有志地主農談會楯縫支部會規約	六十五丁
出雲國有志地主農談會神門支部會規約	六十七丁
出雲國有志地主農談會松江支部會規約	六十八丁

農報 第貳號

●地主ト小作人トノ關係ニ就テ (承前)

(安濃郡) (二)二者ノ關係ハ古來德義ヲ重シ紛争ヲ生シタルコトナカリシガ明治十四年ヨリ同十九年ニ至ルノ間地租改正條例ニ附屬セル地方官心中收穫ハ三分ノ二ヲ地主ノ所得トシ三分ノ一ヲ小作ノ收得トス云



地主ハ其制限ヲ超ヘ收穫ヲ繳スルハ不當ナリト云ヒ又口米ト唱ヘ添米ニ地主ト村ニ由リ異ナレハ四斗入一俵ノ子小作掛地ノ當時舊慣ニ至四斗添フルノ利子乃貸用ス之ヲ當時舊慣ニ至四斗添フルノ割子乃至二小作中結合シテ官衙ニ訴ヘ或ハ地主ノ申合セラ爲ス等ノコトアリシカ郡衙警察署村長役者中尙往々快シトセサルモノアルカ如シ

(二)舊來ハ口頭ノ約ヲ以テ掛地トスルモノ多カリシカ前項紛争ヲ起セシヨリ地主ハ田方ニ對シ小作證ヲ繳スルコトナリシモ實際ニ之ヲ繳スルモ

農報第二號

ノ少ナシ且小作地ニ年限ナカリシカ明治十五六年頃ヨリハ二年乃至十
ケ年期ヲ以テ一期トスルモノアリト雖モ小作者ニ於テ怠情ナキハ年
限経過スルモ其儘繼續シテ掛替等ヲ爲サス又掛米金ヲ不納スルカ又ハ
耕作上怠情ナルカ地主ニ於テ地所ヲ返却セシムルノ必要アルカ若クハ
小作人ヲ交換スル等ノ場合アルカハ年期中ト雖モ地主ハ隨意ニ返還セ
シムルノ慣例ナリ而シテ股文又ハ口頭條約ノ要項ハ概テ左ノ如シ

- 一 郡村地番反別ノ
- 一 掛米高ノ
- 一 口米ノ
- 一 掛米毎年十一月廿日頃ヨリ十二月廿日頃マテニ完納ノ
- 一 對米ヲ不納セサル
- 一 非常ノ災害アルカハ實地檢見ヲ受ケ定額米ノ減少ヲ受クル
- 一 無謂不納スルカハ地所ヲ引揚クル
- 一 土地入用ノ節ハ何時ニテモ種粃相添へ速ニ返却ノ
- 一 土地賣却ノ節ハ小作ヲ離ル事
- 一 耕耘培養ニ意ヲ用ユル

農報第二號

三 小作ニ二種アリ其稱呼ハ各村一定ナラスト雖モ單ニ小作ト唱ルアリ
或ハ借家小作ト稱スルアリ借家小作ハ耕地ハ家屋ヲ併セテ貸與スルモ
ノニシテ小作ハ耕地ノヨリ掛替受ケ納米ヲ爲スノヨリ而シテ借家小
作ハ非常災害等アルカハ地主ヨリ米金ヲ貸與シ若クハ救助シ或ハ米價
非常騰貴ノ時ニ當テハ低價拂ヲ爲ス等特別ノ扶助ヲ受クルニヨリ小作
者モ之ニ報ユルノ義務ヲ尽シ年中四日乃至十二三日間無賃勞役ニ應ジ
或ハ夫役ヲ要スルトキハ其求ニ應シテ勞働シ賃金ハ普通ノ額ヨリ凡二
三割ヲ減セリ如斯ナルヲ以テ彼我最モ親密ノ關係ヲ有ス

四 小作米金還納ノ際處分方法ハ各自多少異ナル所アリテ一定ナラス即
チ事實取調無謂還納スルモノハ再三督責シ保證人又ハ親戚へ示談ヲ遂
ケ納入レノ手續ヲ爲サシメ尙ホ完納セサルカハ耕地ヲ引上ケ之ヲ他ノ
小作人へ掛換へ或ハ家財ヲ差押へ米價ハ相當セル代金ヲ償ハシムルモ
ノアリ又凶作ニ係リ收穫甚少困難ノ事情アルカハ其不足額ハ一ケ年乃
至二ケ年位ノ延期ヲ與へ無利子又ハ年一割位ノ利子ヲ付シテ納メシメ
期限ニ至リ尙完納スル能ハサルカハ再々延期ヲ與へ又ハ地所ヲ引上ケ
ル等地主ノ隨意ニ任ス其地所ヲ引揚ケタル場合ニ於テモ小作人毫モ苦

情ヲ訴フルヲ得ス

(五)田方小作料ヲ定ムルニ二種アリ一ヲ見取掛ト云ヒ一ヲ定面掛ト云フ見取掛ハ年々作柄ノ現況ニ依リ地主小作者兼職收入額ヲ定ム年々差異アリ定面掛ハ掛渡ノ際小作料ヲ豫定スルモノニシテ年々異動ナク豊作年ト雖モ定額ヲ超過スルコトナシ尤モ凶作ノ年ハ小作者ハ地主ニ請テ實況ノ検査ヲ受ケ檢見引ト唱へ若干ノ減量ヲ受クルノ例ナリ二者共ニ地主ト小作者トノ間ニ於テ見込ヲ異ニスルハ刈分ト稱シ地主自ラ之ヲ刈取リ上田ハ四分シテ其三分ヲ下田ハ三分シテ其二分ヲ地主自ラ所得シ殘額ヲ小作人ニ給ス既ニ本法ヲ行フ場合ニ至テハ掛地ハ自然引揚タル風習ナルヲ以テ勉メテ該法ハ行ハサルナリ

(六)土地ヲ賣却スルハ其旨ヲ小作者ヘ示スアリ或ハ然ラザルアリテ一定ノ法ナシ之ヲ賣却シタルハ當勿貸與シタル種別ハ元地主ヘ返却セシメ更ニ繼續掛渡スト否トハ新地主ノ意見ニアリ然レハ小作地ト爲スモノハ前小作者ヘ掛渡ヲ普通トス

(七)地主ト小作人ト收益歩合ハ地味ニ由リ一定ナラスト雖モ田方ハ六歩乃至八歩ノ收入ヲ目的トシ小作料ヲ定メタル地ノニシテ普通七歩ヲ地

主ノ收入トス裏作ノ收穫ハ悉ク小作者ノ利得トセリ畑方ハ概チ地價ノ八掛ケヲ以テ畑銀ト定メ毎年二月末日ヲ以テ地主ヘ納メ入ル例トスレハ志納スルモノ少カラザリシカ近年桑園増殖ニ際シ地主ハ桑苗ヲ植付自作セントスルノ風ヲ示セシヨリ志納ノ弊大ニ減少セリ然レハ事實困難ノ場合アルハ畑銀ニ代ユルニ繩苴草履藪鞋薪炭ノ類ヲ以テ其ノ幾分ヲ受納スルコトアルナリ

(八)害虫ノ發生セシハ小作人ノ請求ニヨリ田一反歩ニ付桐油二合乃至三合ノ割合ヲ以テ地主ヨリ渡スヲ例トス又田畑又ハ貸家ノ修繕ハ些少ノモノヲ除クノ外悉皆地主ノ負擔ニ歸セリ

(九)地方ハ納米ニ粉ノ混入スルハ更ニ唐突ヲ以テ風箴セシメ又ハ米質粗惡ナル種類ハ次年ヨリ受取ラサル等ノ事ヲ命スルノ權利ヲ有ス

(邑智郡)二者ノ關係ハ古來德義ヲ重シシ會テ紛争ヲ生セシコトナシ而シテ二者ノ間ニ於ケル規約ト稱スヘキ一定ノモノナシト雖モ間ニハ小作人ヨリ證書ヲ取付ルモノアリ其要項ヲ舉レハ地主ニ對シ年貢小作米ヲ忘ラス收穫ノ後之レヲ納ム耕地小破ノ修繕ヲ負擔シ其他無謂苦情ヲ申出聞敷等ナリ又地主ハ蒙テ定約シ置カサルモ非常ノ凶年其他天變ニ依

リ小作ノ損毛アルキハ其小作掛米ノ幾分ヲ減シ耕地ノ大破修繕ヲ負擔
シ家屋農牛等ヲ貸渡スヘキ慣行アリ
(那賀郡)二者ノ關係ハ専ラ德義ヲ重シシ概シテ紛争等ナシ藩政ノ時ハ
畑地ノ小作掛ケニ紙掛アリ現金掛ケアリ米大麥掛ケアリ就中紙掛ケノ
如キハ舊津和野藩下ニ屬スル村落ニシテ最小作者ノ困難ナリシカ近來
地主ヨリ米掛ケニ改メシモノ多シ斯ク小作ノ困難ヲ免レシメントスル
カ如キ從來ノ良習持續セリ

農事試驗場ノ稻作

去月二十日農商務省農事試驗本場ニ於テ調査セル稻作ノ景況左ノ如シ
本年ノ稻作ハ播秧後旱天永ク續キテ用水ニ不足ヲ告ケ灌水ノ苦心一方
ナラナリシモ暑氣猛烈ナリシヲ以テ成育善良株張亦佳良ニシテ各試驗
區一般ニ頗ル好景ヲ呈シ昨今繁茂ノ模様近年ニ其例ヲ見サル程ナリ去
月十日及ヒ十一日風雨強烈ナリシ際ニハ早稻中出穂又ハ穂孕セシモノ
多カリシモ格別ノ被害ナク又頃者苞虫發生早生種ニハ殊ニ多カリシモ
勝ヲ捕殺モシニ由リ害ヲ加フルニ至ラヌ目下種類試驗早稻中伊太利
ルトキ及北海道赤毛ノ二種ハ既ニ收穫ニ達シ其直播セシモノハ本日(八

月二十日)之ヲ收穫セリ埼玉縣下二合半ニテ栽植スル保別種ノ如キハ本
月七日穂揃トナリテ不日成熟ニ至ルヘク高知縣原産出雲種ハ同十一日
ニ穂揃ト爲レリ其他十四五日ノ交種揃ト爲リタルモノ八種十七日ヨリ
本日マラニ穂揃トナリタルモノ二種又穂揃ト爲ラサルモノ出穂三分ノ一
以上ニ及ヒタルモノ四種アリ右ノ内ハルトキ赤毛ノ二種ヲ除クノ外ハ
概チ克ク揃ヒ穂先稠密ナリ中稻ニ在リテモ其早キモノハ大概孕穂ヲ爲
シ又夕晩稻ニ在リテハ株張甚タ多ク田面殆ント余地ナキノ觀アリ肥料
試驗中窒素肥料ノ効驗ヲ試驗スルモノニ在リテハ籾粕及人糞ノ二區
最モ優良ニシテ大豆粕、糠、棉實、油粕ノ三區之ニ次キ人尿毛髮ノ二區ハ最
モ劣リテ尺少シク無肥料ニ優レルニ過キス施肥期試驗ニ於テハ肥料ノ
全量ヲ播秧前ニ施セシモノ莖葉稍々短クシテ其色褪メタルモ成育其度
ニ適ヒテ株張甚タ多ク其一分ヲ二番除草後ニ施セシモノハ分量ノ如何
ニ關テス莖葉克ク伸張シテ生育株張共ニ前者ニ劣ラヌト雖モ播秧前ヨ
リ四回ニ分施シタルモノニ在リテハ殆ト前者ニ讓ル所ナク稍々齊一ナ
レトモ色ハ濃綠ニシテ葉先揃ハサルノ傾アリ肥料ノ三要素ヲ試驗セシ
モノハ各區克ク其特効ヲ現シテ大ニ人目ヲ惹キ播種期ヲ異ニセルモノ

ハ其尤モ早キモノ即チ四月二十一日ノ播種ニ係ルモノ比較的ニ繁茂旺盛ニシテ目下余程穂ヲ抽キタルモ下葉多ク枯燥シ其次ノ播種即チ四月二十八日ノ分ハ抽穂稍々後ルモ却テ健全ノ狀ヲ呈シ夫ヨリ以下ニ至リテハ漸次後レ五月二十六日及六月二日ノ兩日ニ播種セルモノハ其成育未タ前者ノ半ニ及ハスシテ抽穂ノ兆ヲ見ス播種量試驗ニ至リテハ一合播最モ旺盛ニシテ種量増加スルニ從ヒ漸ク劣リ一步ニ一升播キタルモノノ如キハ既ニ著シキ相違ヲ呈セリ播種ノ深淺ヲ異ニセルモノハ早中晩ノ何種ヲ論セス五分一寸ノ兩區最モ善ク稠茂シ二寸區少シク劣リ三寸區ニ至リテハ莖ノ伸暢却テ優ル所アルモ株元自ラ稀疎ナルノ感アリ株數試驗三十種ヲ除クノ外四十二株、四十八株、六十株共ニ大差ナク成育株數共ニ善良ナルヲ表シ苗數試驗ニ在ツテハ一株一本ノモノト二本三本ノモノトヲ除クノ外ハ大ナル異同ナク其早稻信州ハ穂揃ト爲リ中稻石白種モ八本植以上ハ出穂ナルカ其克ク揃ヒタルハ五本植以上ナリ然レトモ十本植ノ如キハ其種甚タ少シ此他ノ試驗ハ氣候ノ適順ナルタメカ成育地ヲ善良ニシテ一瞥容易ニ其差異ヲ認メ難シ

附記 試驗場附近ノ稻作ハ本年苗代ノ時季ニ當リ氣候甚タ不順ニシテ

時々或ハ降雹アリ一旦發芽セシ苗ノ腐敗セシモノ多カラズ其甚シキモノニ至リテハ一升ノ種粉ヲ下シ僅々一二合播ノ苗立ニ過キサルモノ往々之アリ苗ノ分與ヲ本場ニ請フモノ二三ニ止ラス勢苗ノ不足ヲ告ケ爲メニ平生ニ比スレハ播種機分力疎ニシテ且ツ少數ナル有様ナリシモ播種後氣候ノ適順ナリシヲ以テ爾後早稲ノタメ東奔西走漸ク澆水シタルニモ拘ラス成育株數頗ル善良早稲カラス種ノ如キハ抽穂能ク實ノリテ垂頭シ最早收穫ニ餘日アラサルヘシ既ニ收穫セシモノモ間々之アリ今後暴風雨ノ害ナク昨今ノ氣候ニシテ今暫ク繼續スルトキハ中稻晚稻共ニ十二分ノ豊作ヲ見ルニ至ラン

● 汎ク耕地所有者ニ勸告ス

樋田魯一

耕地區劃ノ改良ノ耕作、路、用水、排水、包含スルハ農業進歩ノ大本ナリ農業經濟永久ノ基礎ナリ所謂ノ改良方法ハ往年時ノ農商務大臣谷子爵ノ歐米巡回ニ隨行ノ際歐洲ノ小邦リクサンアルクニ著明ノ善良事業トシテ實施シツ、アル耕地改良場ヲ實踐シテ取調タルモノニ基セリ然レトモ深ク本邦ノ事情ニ鑒ミテ方法ヲ組立テ且既ニ五六年間石川縣下ニ實施セラレ其實效ハ數年ノ企望空シカラス許多ノ利益アリテ些少ノ損害タモナク能ク

我國ニ歸化シテ善良事業タルノ實踐ヲ示シ今ヤ迄モ願慮スル所ナカラ
 ヲム故ニ茲ニ進シテ大ニ四方ニ勸告シ此事業ノ續々興起センコトヲ望
 ムヤ切ナリ其事業ノ利益アル概要ヲ舉レハ第一改良ヲ施行スルノ經費
 ハ新得増反別(畦畔ノ耕地トナリタルヲ云)ノ價ニテ償ヒ得テ尙許多ノ剩
 餘アリ其新得増反別ハ概テ百分ノ一乃至八ニ當レリ之ヲ石川縣ノヨミニ
 テモ實施ニ適スヘキケ所ニ普ク實施ヲ遂クレハ其新得増反別ハ無慮二
 千三百三十町歩ノ多キニ達スヘシト云フ若之ヲ全國ニ普及セハ其新得
 反別幾何ソヤ蓋シ驚クヘキノ巨額ナラン此新得反別ハ地租條例ニ依リ
 三十年間餘下地タルノ許可ヲ請ヒ得ヘシ是即十一錢ノ費モナクシテ所
 有者ニハ大利益得アリ國家ニハ大公益タリ加之爲メニ耕耘ニモ灌溉ニモ
 運搬ニモ至便ヲ與ヘ濕地モ乾燥シ一毛作地ハ三毛作地トナリ賣買價ハ
 概テ三割以上増進セルハ石川縣ノ現況ナリ冀クハ全國大小ノ耕地所有
 者奮テ此事業ニ從ハレナハ實ニ國家無慮ノ幸福トナラン余ハ嘗初以降
 筆ニモ口ニモ頻リニ其事ヲ説キタルモ今日トナリテハ尙ホ全國耕地所
 有者ニハ人毎ニ説キ勸メ度思ヘリ然レトモ開ハ素ヨリ及フヘキ企ニ非
 ナレハ其意ヲ以テ茲ニハ文章ヲ作り敢テ勸告ス若夫ノ實地ノ狀況ヲ見

ント欲セハ石川縣石川郡ニ至レハ實地ヲ遂ケタル方面數ヶ所アリ又實
 施スヘキ方法書ヲ得シコトヲ望ム人ハ郵便印紙二錢ヲ添ヘテ本年九月
 迄ニ御申込アラハ其部數ヲ印刷シ無料ニテ十月中ニ方法書ヲ送呈スヘ
 シ猶且御覽ニ依リテハ筆答ナリ實地ニ就テナリ及フ的ノ尽力ヲ致スヘ
 シ

●縣下重要作物害虫要錄 第二

蔬菜類ノ部

一 ガーナ(方言)

羽黒クシテ莖ノ大ナルモノニ似テ八十八夜頃發生シ開花ノ頃葉ヲ喰
 フ初メハ少數ナルモ起テニシテ大ニ蕃殖シ遂ニ全國悉ク喰盡スコト
 アリ

驅除法

夜中篝火ヲ焚テ誘殺スルヲ良トス

一 アマコ(方言)

開花前ヨリ成莢后ニ於テ寄生ス加害ノ甚シキニ至テハ滿園悉ク寄生
 スルコトアリ多分福氣多キ年或ハ后年ニ於テ生ス

驅除法

苦蘆汁凡一升ニ水一荷ヲ混和シ日中之ヲ撒布スレハ退治スルノ實驗アリ

一 莨菪(ハシメウ)

其年氣候ノ變化ニヨリテ生スルモノカ年々害及スルモノニアラス偶々二三年中ニ一回位ノ割合ニ大豆ヲ害スルナリ立秋彼岸頃ノ間ニ於テ俄然群ヲ爲シテ大豆ヲ襲來シ五六十若クハ三四百ヨリ五六百ヅ、片端ヨリ其葉ヲ食ヌ爾シテ彼岸後ニ至レハ飛散ス其形ヲ橢圓形ニシテ少シク平タシ六足ヲ備フ背ハ黒或ハ黃白ノ立綱羽ニシテ甲虫ノ類ナリ体長凡ソ四五分位ナリトス

右出雲外二郡役所答申

驅除法

早朝熱湯ヲ鍋ニ入置キ木綿片又ハ紙ヲ以テ方二三寸ノ網ヲ作り之ヲ振リ替シ直ニ鍋ニ入レ殺スナリ該虫ハ全体五六分モ取盡セハ其余ハ自然飛散シテ其跡ヲ止メス故ニ該虫ノ有無ハ大豆圃ニ於テ注意シ折々巡視スルヲ要ス

右出雲外二郡役所答申

一 トト虫

苗ニテ長キ二寸位ノ頃ヨリ開花期マテノ間ニ於テ寄生シ葉面ヲ喰ヒ葉ニ網狀ノ穴ヲ穿テ爲メニ下葉ヲ枯ラシ忽チニシテ全國ヲ害スルヲアリ

右島根外二郡役所答申

驅除法

若木若クハアセビヲ煎シ二三回其汁ヲ撒布スヘシ但シ日中ニ施スラ良トス

右島根外二郡役所答申

一 アマユ(方言)

開花前ニ寄生ス漸次蔓延シテ下葉ヲ枯ラス

驅除法

朝露ノ乾カナル前ニ煤ヲ撒布スルカ或ハ日中ニ苦蘆汁一升ニ水一荷ヲ混和シタルモノヲ撒布スヘシ

右島根外二郡役所答申
一 藍ノ體蟲

七月上旬頃藍葉ノ間ニ發生シテ漸ク莖中ニ蝕入シ其莖枯死スルニ至レハ又隣葉ニ轉シテ之ヲ食害ス其孵化シテヨリ凡ソ二十日許ニシテ蛹トナリ尙十日許ヲ經テ小蛾ニ羽化スルモノナリ

驅除法

發生ノ時期ニ至リ時々其藍蝨ヲ監視シ若シ葉ノ枯レタル者アラハ速ニ其根際ヨリ掘探リ其莖ヲ燒盡スルヲ宜シトス又ハ黃棟樹ノ皮ヲ煎出シタル液ヲ一週間毎ニ草箒ヲ以テ注クハ此虫ヲ驅ルノミナラス

右松江市役所答申

煙草害虫ノ部

一 煙草ノ害虫

七月下旬頃ヨリ發生シ其成長スルヲ速ニシテ一寸許トナリ地中ニ入り蛹ニ變レ爾後七日間ヲ經テ小蛾ニ化シ直ニ葉ノ裏面ニ産卵ス而

シテ秋期ニ至リ發生ノモノハ地中ニ盤居シテ來春ニ至リ孵化ス該虫ノ初メハ甚ク細微ニシテ容易ニ認め難シト雖モ其長スルニ及ンテハ蔓延ノ迅カニシテ莖蓄實ノ嫌ナク之ヲ食害スルヲ最甚シ

右松江市役所答申

驅除法

此虫ヲ驅除スルニハ種々アレド毎朝株毎ニ監視シテ捕殺スルノ外良法ナシ

右松江市役所答申

● 苗代ノ沸クヲ防ク法

(●) 今年ハ當地地方苗代田ノ苗芽出ス頃時候變動ノ爲カ處々ニ大概泥沸キ出テ其所ニ小ナキ赤虫生レテ遊動ス而シテ粉種深ク沈入シ已ニ一粒モ見當ラサルニ至リ受害者ハ色々豫防ヲ施シタレ共驗シナカリレ余ハ試ヨニ石灰ヲ被害地ヘ少々散布シ翌朝検査スルニ右ノ赤虫ハ見當ラヌ消失シ沸泥ハ前ノ如ク平泥トナレルヲ以テ直ニ之ヲ被害者ニ報導シ此法ヲ施シタル人ハ此大害ヲ免ルヽヲ得タリ次テ之ヨリ四五日ヲ經テ苗ノ成長完全トナリ良苗ヲ得タリ

●卵中雌雄ノ判別

從來我國ニ鶏卵ノ雌雄ヲ判別スル法ナリトテ或ハ割合ニ横長キヲ以テ雄トナシ或ハ否ラサルヲ以テ雌トナシ又ハ午前ニ産卵セルモノハ雄ニシテ午後ニ産卵セルモノハ雌ナリ等種々ノ説アル事ナリシヤ家禽雜誌ヲ見ルニ米國ニテモ其研究ヲ積ミタレド更ニ良結果ヲ得ス又獨逸國伯林大學校ノ生物學胎生學教授ドクトル、ダイヤルド氏ト曰フハ胎生學ニテハ世ニ雙ヒナキ大家ニシテ此人モ多年専心研究シタレト到底今日ノ學問ノ度ニテハ卵中ニ雌雄ヲ判別スル事ハ出來難シト明言セリ

●稻田ノ管理

稻ヲ收穫シテヨリ翌年蒔付迄ノ田ノ取扱ニ付古ヨリ種々ノ慣行アリ第一常ニ稻田ニ水ヲ置ク(甲)殊更ニ水ヲ覆フモノ(乙)元來濕地ニシテ排水ニ至難ナルヨリ止ムヲ得ス水ヲ覆フモノ) 第二水ハ排除シ得ルモ土地ヲ打テ起ストナク其儘來年ノ植付迄捨テ置ク(一) 第三水ヲ去リ土地ヲ起スト雖トモ來年ノ植付迄別ニ作物ヲ植付ケサル(一) 第四水ヲ去リ土地ヲ打テ起シ間作ヲ爲作ケニ毛作ヲナスモノ(甲)葉雲英ヲ作ル(乙)他ノ作物即チ麥菜種等ヲ作ル(一)何レノ地方ト雖トモ稻田ノ管理ハ此外ニ

農報第二號

出テサルヘシ以下其利害ヲ述ヘントス抑モ土壤ノ成分漸々變化シテ未ダ溶解セサルモノモ溶解シ易キニ至リ最初植物ノ吸收シ克ハサルモノモ是レヲ變化シテ容易ニ吸收セシムルヲ得ルニ至ラシムル所以ノモノハ主ニ水ト空氣トノ作用ニ因ル彼ノ農家ノ耕耨シテ土壤ヲ細碎スルハ獨リ表面ノミナラス下層迄モ出來得ル丈ケ多クノ土壤ヲシテ空氣ニ觸レシメ以テ化學變化ヲ起サシメントスルニアリ又土壤ハ之レカ爲メ濕氣ヲ受クルヲ必用ナリ然レトモ此ニ作用中就中必用ナルハ空氣ノ作用ナリ故ニ土地ハ第一ニ空氣第二ニ濕氣ニ觸レシムル様取扱フヲ要ス畑ニ於テモ屢々深く耕シ時ニ降雨ノアルアレハ此畑ニ植付ルニ如何ナル作物ヲ以テスルニ必ス放置セル地ニ劣ラサル良結果ヲ見ル(一)萬葉ノ信シテ疑ハサル處ナリ是レ其充分ノ空氣ト適宜ノ濕氣ヲ得ルカ故ニ土壤ハ常ニ適宜ノ變化ヲ起ストナ得ルヲ以テナリ水田ニアリテハ然ラス移植ノ時分ヨリ穂孕ミノ時迄ハ田面ニ水ヲ圍澆ス又穂孕后ト雖トモ實入り初ル迄ハ土地ヲ濕シ置カサルヲ得サルヲ以テ其土壤ハ濕氣ニハ過度ニ失スレトモ水ノ爲メニ空氣ニ遮ラレテ之ニ觸ル(一)不充分隨テ其土地タル空氣ノ必用ナル作用ハ勿論光線ノ作用ヲ受ク(一)克ハサレ

ハ以上述タル尤モ緊要ナル化學變化ヲ起レ得サルカ故ニ土地ハ益々衰
 弱ヲ來スナリ依テ稻田ハ收穫後ヨリ植付迄ノ間ハ出來得ル丈ノ方法ニ
 依テ水ヲ排除スルコトニ注意スヘシ右ノ道理ヨリ考フルニ第一ノ方法ハ
 尤モ要法ト云ハサルヲ得ストテモ水ヲ排クコト困難ノ場所ニテハ止ムヲ
 得テレトモ苟クモ水ヲ排キ得ル處ナレハ必ス排水ヲ怠ル可カラズ彼ノ
 故意ニ水ヲ入ルカ如キハ最モ避クヘキトス而シテ今日水ヲ排ク克
 ハスト稱シ居ル處ニテモ若シ溝ヲ深ク穿ツカ或ハ適當ナル排水法ヲ行
 ヘハ水ノ排ケタルコトアラズ冬間稻田ヲ乾スコトハ冬田管理ノ第一着ナリ
 然レナカラ只乾カセシノミニテハ充分ニアラズ前ニモ云ヘル如ク土地
 ハ耕ス爲ニ空氣ト濕氣ノ二作用ヲ受ク若シ耕サレハ此二作用ヲ受ク
 ルコト極メテ少ナシ雖モ今年ノ土地ハ明年ニ至リテ改良スルコト甚ク僅カ
 ナリ平生水ヲ耕ラサル畑ニ於テスラ作物收穫後直ニ耕耘スルヲ以テ一
 般ノ慣行トス況ンヤ土地ノ過半ハ稻作ノ爲メニ水ヲ蔽フテ空氣ノ作用
 ヲ受ケタル稻田ニ於テアヤ宜シク收穫後ハ速カニ水ヲ去リ空氣ノ作用
 ヲ活用セサル可カラズ即チ此ノ打テ起レハ管理ノ第二着ナリ次ニ二毛
 作ヲ爲スハ稻田管理ノ尤モ當ヲ得タルモノナリ何トナレハ全シ地面ニ

一作スルヨリモ二作シテ二回收穫ヲ得レハ多クノ利益ヲ得ルハ勿論其
 外二作ヲトス爲メニ必ス水ヲ去リ土地ヲ起スノ利益アリ假ヘ充分水ヲ
 排ル克ハタル處ニテモ高ク畝ヲ作リテ二作ヲ爲スヘシ此ノ如クシテ水
 ヲ去リ或ハ高畝ヲ造リテ土地ヲ耕ヤス故ニ土地ハ著シク空氣ニ觸ル
 コトヲ得益々變化ヲ受ケ決シテ二毛作ノ爲メ土地ヲ衰耗セシムルカ如キ
 コトアラサルナリ各地ノ農家奉テ之レヲ行フタランニハ小ハ一家ヨリ大
 ハ一國ニ至ル迄其利益如何シヤ記シテ以テ諸君ノ參考ニ供ス幸ニ御推
 讀アレ

●葡萄樹ノ適肥料及施肥法

該樹ノ肥料ハ骨粉堆肥廐肥酒粕等最モ良シ次ハ薄キ人糞草木灰木ナリ
 是レヲ施サンニハ春彼岸前ト果實收穫後トニ根邊(株根ヨリ尺余ヲ隔テ
 ヲ)ヲ耕シ肥料ヲ掘リ込ムヘシ人糞ハ克ク腐熟セシメテ施スヘシ

●田畔ノ蚯蚓驅除法

蚯蚓ノ爲メニ水田ノ畦畔ヲ潰崩サレ困難スルハ何レノ農家モ全シコトナ
 ルカ之ヲ防ク法ト云フ閉クニ先ツ水田地畔ヘノ際石灰ニ鐵屑粉ヲ畦土
 ニ混和シ塗リ立ツルナリ細ラハ蚯蚓ハ害ヲナスコト克ハサルモノナリト

● 灌溉用汲水器使用

宮崎縣北那珂郡廣瀬村大字下田島字田上ニ於テ有志者三十人共全灌溉用蒸氣汲水器ヲ設置シ六月四日ヨリ其運轉ヲ開始セリ蒸氣器械ハ十二馬力ニシテ器械代價及運搬据付水路溝渠掘設等ノ費用合計三千二十二圓五十八錢ヲ要セリ而シテ該器械ハ汲水唧筒二個ヲ備ヘ一ハ直徑八吋一ハ直徑六吋ニシテ目下使用スル所ハ八吋ノモノニシテ汲水量ハ一秒時間四立方尺五五以テ五十四町步余ニ灌溉スルヲ得ヘシ故ニ他ノ一箇ヲ合セ使用スルトキハ九十町步弱ニ灌溉シ得ヘキ見込ナリ而シテ之ガ運轉ニ要スル費用ハ年々八十日間使用スルモノト爲シ一箇年ノ費用平均金五百二十一圓四十二錢五厘ナリトス斯ノ如ク費ス所少クシテ多クノ田地ニ灌溉シ得ヘキヲ以テ縣下各地ニ於テ該器械設置ノ計畫ヲ爲ス者アリト云フ

● 土地整理ノ舉既ニ隣縣鳥取ニ及ビタリ

鳥取縣會見郡ノ一部ニ笑蚊屋郷ト稱スル方里余ニ垣リ地形大概平坦ナル部落アリ此地方ハ土地整理ニ最モ必要ナルモ村民未タ其感ナシ折柄昨年水災ノ爲メ田面用水路共ニ流失セル者尠カラヌ之レカ復舊ト共ニ

土地整理法ヲ實行セハ利益不尠ヲ以テ當局者專ラ之レヲ獎勵セラレ笑蚊郷ノ内日吉澤村一村ハ協議ヲ終リ過日來縣立農學校長吉田農學士ノ出張ヲ乞ヒ實測ノ上整理ノ計畫ヲ立テ整理圖ハ既ニ調製済トナリシモ偶々稻作仕付ノ季節トナリタレハ當秋ヲ待テ全村二百町步程ニ實施スルノ見込ナリト云フ

● 泥龜飼養法

親龜飼育地ハ種々アレトモ概テ面積七八坪ノ所ヲ適宜ノ深サニ堀リ雌雄一對ヲ放ツヘシ多ク放ツトキハ喘息合ヒ純ヲ生シ爲ニ衰弱シ遂ニ斃ルトアリ故ニ數頭ノ親龜ヲ飼育セント欲スルトキハ斯ノ如キ池ヲ數個造ルカ又ハ一二反歩ノ面積ヲ有スル池ヲ造ルヘシ此池ノ中央又ハ一隅ニ南方ニ向ケ四五尺四方ノ面積ニシテ高三寸位ニ板ニテ垣ヲ造リ南方ハ親龜ノ出入シ得ヘキ様明ケ置クヘシ之レ產卵場ナリ尙其出入口ニ五六合ヲ容ルヘキ瓶ヲ埋メ龜兒ノ孵化レ出ルヤ此内ニ墮テ他ニ出テサル様ナヌヘシ而シテ龜兒飼育場ハ方六尺深サ一尺位ニ堀リ泥ヲ五寸入レ水ハ三寸ノ深サニ溜メ其周圍ニ淺キ處ヲ設ケ置クヘシ然スルトキハ龜兒ハ其泥土中ニ潜伏シ恒ニ頭部而已ヲ出シテ時々餌ヲ求ムルモノナ

農報第二號

飼育場ハ何レモ周圍ニ高サ一尺計リノ坂塀ヲ設ケ龜ノ逃ヲ防クヘ
 親龜ノ強弱ハ産兒ニ關係スルコト最モ甚クシ故ニ其強大ナルモノヲ擇
 フヘシ釣獲セシモノ、如キハ多少ノ釣獲アリテ強健ナラサルヲ以テ適
 セサルモノト知ルヘシ雌雄ヲ識別スルニ簡易ナル方法ハ其水中ニ游泳
 スルトキ甲ノ外ニ尾ノ如キモノ、出テタルヲ雄トナシ之ナキヲ雌トス
 又腹ヲ上向ニシ見レハ雄ハ后足ノ間ヨリ△形ニシテ長キモノアリ雌ハ
 △形ノ如キアリ是レ陰具ナリトス而シテ又雌ハ雄ニ比スレハ體軀肥滿
 且ツ大ナリ都テ種龜トナスニハ雄ノ小ナルハ敢テ妨ナシト雖モ雌ハ可
 成大ナルヲ撰フヘシ其量目ハ概テ四百目以上ノモノヲ可トス交尾期ハ
 八十八夜頃ニシテ産卵期ハ五月中旬(陰曆)ヨリ六月下旬迄ニシテ都合産
 卵三回トス其一回ノ數二十乃至三十顆ナリ孵化期ハ産卵后六七十日ナ
 リ産卵期ニ至レハ飼育池ノ中央ナル産卵場ニ自ラ穴ヲ穿テ十時頃ヨリ
 正午迄ノ間ニ産卵シ先ツ石交リノ土ヲ前足ニテ卵上ニ平タク盛リ稍卵
 見ヘサルニ至リ足ニテ周圍ノ土ヲ爬キ寄セ爪ニテ爬キ均ラシ又二三日
 ヲ經テ交尾レ二三日ノ后又前ノ如クナスモノナリ

農報第二號

親龜ニハ八十八夜ヨリ秋彼岸頃マテ充分ニ餌ヲ與フヘシ餌料ハ肉類ヲ
 可トスルヲ以テ蚤蟬ノ如キヲ用ユヘシ又二日乃至三日毎ニ小鳥(カウセ
 ミ)ノ如キ脂肪ニ富ミタルヲ可トス(ノ肉ヲ與ヘシ彼岸后ハ泥中ニ潜伏シ
 翌春八十八夜頃マテハ絶食ス而シテ兒龜ノ腹中ニ隨テシモノハ他ニ設
 ケアル池ニ放ツヘシ(親龜ト混合飼養スルトキハ親ノ爲ニ喰ハルヲ以
 テナリ)而シテ其生長ノ度合ハ素ヨリ其強弱ニ依リ遲速アリト雖モ概テ
 一ケ年ヲ經レハ十五匁乃至二十匁二年ヲ經レハ四十匁三年ヲ經レハ八
 十匁乃至百二三十匁ニ成長スヘシ兒龜ノ二ケ年ヲ經タルノハ好シテ閏
 年ヲナレ往々斃死スルモノナレハ勉メテ隔離方ニ注意スヘシ(齋藤勝廣
 氏農話摘要)

●種苗ノ配付

○種苗(明治廿七年六月二十日)

○油菜二種ト裸麥六種 朝鮮油菜ハ莖幹長大ニシテ粒最大收穫頗ル多
 シ、矮油菜ハ早熟ニシテ最下部ヨリ枝ヲ生シ恰モ方言「ホーキクサ」ノ如キ
 狀ヲナス收穫最多ナリ、小關裸ハ粒最大ニシテ品質極メテ良好且ツ收穫
 最多シ屋根裸ハ大粒ニシテ穗最モ長ク品質極上收穫頗ル多シ大粒裸ハ

農報第二號

穗大ニシテ收穫多量品質極メテ良好ナリ、薄皮裸ハ收穫多量品質良好ナリ、凶作不知稔ハ大粒大穗ニシテ品質良好ナリ、肥后裸ハ大粒ニシテ收穫頗ル多シ以上ハ數十種中ヨリ撰抜シタル者ニシテ將來有望ノ良種ト認ム依テ廣ク我全業者ヘ分與セント欲ス要望ノ士ハ一種ニ付郵税ノ外一錢ヲ添ヘテ御申越アラハ早速精撰種三十匁迄發送スヘシ(筑后國三池郡銀水村大字宮部大石進)

○蕪菁五種 近江蕪菁ハ根形扁平頗ル大ニシテ柔軟且ツ甘味アリテ或ハ鹽漬ケ浸シ物トナシテ可ナリ實ニ蕪菁中ニ優等種ナリ木曾蕪菁ハ信州木曾ノ原産ニシテ頗ル繁茂シ易ク濃紅色ヲ呈シ根葉共ニ柔軟頗ル甘味ニ富ム浸シ物トナシ或ハ鹽漬養食共ニ可ナリ銀根蕪菁ハ近江國ノ特産ニシテ濃赤色長圓形ニシテ肉質緻密甘味頗ル多ク脆軟芳味ニシテ珍客ニ供シテ大ニ膳部ヲ助ク天王寺蕪菁ハ攝津天王寺ノ原産ニシテ最扁平ニシテ根葉共柔軟鹽漬ニ可ナリ聖護院蕪菁ハ山城國ノ名産ニシテ最大ナルモノハ周リ一尺八九寸位ニ達ス頗甘味柔軟ニシテ養食シ或ハ鹽漬トナシ或ハ浸シ物トナシテ實ニ宜シ蕪菁中最優等種ノ一ト認ム以上ノ各種ハ本年多量ニ採種シタルヲ以テ汎ク全國篤農家ニ配布シ試作ヲ

農報第二號

乞ハントス御要望ノ士ハ郵税二錢ノ外ニ四錢ヲ投セラルレハ五種取合セ全封ヲ以テ早速配送ス可シ又一種ノヨ御要望ナレハ郵券三錢ヲ送ラレヨ(兵庫縣津名郡鮎原村下森榮次郎)

○蔬菜四種ト大豆一種 廣東菜ハ清國原産ニシテ葉幅廣ク肥大柔軟ニシテ蔬菜中ノ王タリ野澤赤蕪ハ葉根共ニ大ナリ風味ヨク殊ニ其根赤色ナルハ一奇ト稱スヘシ青蕪モ又大ナル球根ヲ生シ品質前種ニ劣ラス糖菜ハ普通莖ニ勝ル下莖ニ遠ク柔軟ニシテ味宜シ黒大豆ハ余毎ニ好結果ヲ得各地品評會共進會等ニ於テ賞ヲ得タルヲ其數ヲ知ラス他種ト異ナリ大粒ニシテ收穫多量ナリ以上ノ種子要望者ハ郵券ニテ蔬菜ハ四錢(四種共呈ス)大豆ハ三錢ヲ投セラルレハ即日發送呈ス(京都府何鹿郡物部村字西坂中野千高藏)

○桑種ト夏蚕種 明年ノ接祐ヲ作ル桑實ヲ本年播種期ニ分與ス依テ精撰種量一合(苗數一万五千本位)ニ付郵送費共ニ十五錢五合ナレハ六十五錢ノ割ニテ分送ス夏蚕種ノ收利多キ事ハ已ニ諸君ノ認識セラル、處ナリ依テ未タ試育ナキ諸君ニ普及セシメントス尤モ蚕種ハ精撰無毒ノ者ヲ以テシ一々順微鏡検査ヲ行ヒ種類ハ珍功丸又ハ白蚕何レニテモ望ノ

方ヲ分テ概製一紙分郵券四錢又全五紙分ナレハ拾錢封入申込アレハ本年夏季飼育シテ收卵シ検査ヲ經シ上ニテ發送ス是ヲ明春飼育シ採卵スルトキハ一紙分ニテ卵量五匁位ハ得ヘシ(京都府下何鹿郡中土林村陸合湯井甚左)

○驅虫菊 此種子要望ナレハ郵券六錢ニテ一包ツ、送ル(和歌山縣日高郡東内原村森正雄)

○麥種ノ配布 農商務省農事試驗場ニテハ本年モ試驗ノ爲メ作りタル外國大麥及ヒ小麥各二種ツ、全國ノ有志者ニ無代價ニテ配布スルニ付要望者ハ七月十五日迄ニ申出アルヘシ

●簡易農學校規程

ハ文部省令第十九號ヲ以テ左ノ如ク定メラレタリ

第一條 簡易ナル方法ニ依リ農事教育ヲ施サントスル者ハ此ノ規定ニヨルヘシ

第二條 簡易農學校ノ學科ハ算術物理化學博物ノ大要、耕種、園藝、肥料、土壤、排水灌漑、害虫、養畜、農産製造、氣象、農業工事、農業經濟ノ類トシ地方ノ情況ニ依リ斟酌シ又ハ併合シテ教授スルヲ要ス又水産、森林、養蠶、獸醫

ノ科目ヲ加フルコトヲ得

第三條 簡易農學校ハ農隙又ハ其他便宜ノ時期ヲ選ビ之ヲ開設スルコトヲ得

地方ノ狀況ニヨリ必要ノ各地ニ分教場ヲ設置シ巡回教授ノ方法ニヨリテ教授ヲナスコトヲ得

第四條 簡易農學校ニ入學スル生徒ハ年齢十四年以上トス

第五條 簡易農學校ニ於テハ農業者又ハ農事ニ篤志ナル者ヲ以テ商職員トナシ其學校ニ關スル事件ヲ商議セシムルコトヲ得

第六條 簡易農學校ニ於テハ授業料ヲ徴收スルト否トハ各地方ノ便宜タルヘシ

第七條 水産養蠶獸醫ヲ專修スル簡易學校ハ此ノ規定ニ準スヘシ

省令說明

一簡易農學校ハ地方經濟ヲ以テ一所又ハ數所ヲ一府縣内ニ置キ又ハ郡或ハ町村組合ノ支費ヲ以テ區域ヲ限リ之ヲ置クモ俱ニ其ノ便宜ニ任ス而シテ其ノ設備ノ大小ニ從ヒ學課程度ニ高低ノ差アリ學年ニ長短ノ別アルコトヲ妨ケサルヘシ

一 簡易學校ノ目的ハ農家ヲシテ從來沿習セル耕種ノ外ニ科學的進步ノ利益ヲ知ラシムルニ在リ故ニ務メテ農家子弟ノ爲ニ入り易キノ門ヲ開キ普通學校ニ於ケル一定ノ規則ヲ以テ檢束スルノ例ニ倣ハサルヘシ其ノ授業ハ成ルヘク平易卑近ナル言語ニ由リ學術講義ヨリモ事ヲ談話ノ体ヲ用ウヘク其ノ學科ハ併合簡括ナルヲ要シ分科ノ多キヲ要セス其ノ授業時間ハ或ハ農隙ニ於テ數月又ハ數十日間之ヲ開キ或ハ夜間ニ之ヲ開シガ如キ務メテ農家ノ生計ヲ妨ケサル事ニ注意スヘシ

一 現ニ各地方ニ於テ設置スル農事講習所及農談會ノ如キハ此レ亦農事進步ノ上ニ於テ主要ナル機關ニシテ農學校ト相依リ相助クヘキモノタリ今此ノ規程ニヨリテ之ヲ農學校ノ組織トナスノ必要アルコトナシ何トナレハ彼此各々地方ノ情況ニ適スル者アルヘク其効用ニ於テ亦一ヲ取リテ他ヲ廢ヘキニ非サレハナリ

●農事講習所規程

ハ農商務省令第八號ヲ以テ左ノ如ク定メラレタリ

第一條 此規程ニ農事講習所ト稱スルハ地方勸業費若クハ之ガ補助ヲ

以テ設立スル普通農事、蠶業、茶業、獸醫、蹄鐵、畜産ノ講習所若クハ傳習所ヲ謂フ

第二條 農事講習所ハ地方産業ノ改良進步ヲ圖ルヲ目的トスベシ

第三條 農事講習所ノ教科科目ハ農事ニ係ルモノヲ主トシ地方ノ情況ニ應ジ補助教科トシ數學、丈量、氣象、物理、化學、博物、地理、圖畫ノ類ヲ加フルコトヲ得

第四條 農事講習所ハ實習ヲ主トシ授業時間ノ過半ヲ之ニ充ツヘシ

第五條 農事講習所ノ修業年限ハ二個年以内トス

第六條 地方長官ニ於テ農事講習所ヲ設立シ若クハ補助セントスルトキハ講習所規則各種ノ豫定設備及經費概算額ヲ具シ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 地方長官ハ前條ノ認可ヲ經農事講習所ヲ設立シ若クハ補助スルトキハ速ニ左ノ事項ヲ農商務大臣ニ届出ベシ但第二項ハ毎年三月三十一日マデニ其他ノ各項ハ變更ノ都度本條ノ手續ヲ爲スベシ

一 名稱及位置 二 經費ノ種別及其豫算金額 三 實習設備ノ種別及其數又ハ其面積 四 建物ノ種別及其坪數 五 職員ノ履歷及

教師ノ担任教科目

- 第八條 地方長官ハ農事講習所ノ教師ヲシテ農事ニ關スル巡回講話ヲナサシムルコトヲ得
- 第九條 農事講習所ハ便宜ノ季節ヲ撰ビ隨所ニ開設スルコトヲ得
- 第十條 農事講習所業務ノ功程ハ前年度分取纏メ毎年四月三十日迄ニ農商務大臣ニ報告スヘシ
- 第十一條 水産講習所又ハ傳習所ハ此規程ニ準ズベシ
- 第十二條(附則) 地方長官ハ現在ノ講習所若クハ傳習所ニ付來十月三十一日迄ニ其規則ヲ添へ第七條ノ手續ヲ爲スベシ
- 農事講習所設置ノ心得 ニツキ農商務大臣ハ全省訓令第廿六號ヲ以テ左ノ如ク示達シタリ
- 一 農事講習所ハ地方慣行ノ技術ノ外學理ノ應用ヲ授ケ地方農事ノ改良進歩ヲ圖ルヲ以テ主眼トナスヘキモノナルガ故ニ成ルヘク當業者及其子弟ヲ養成スルコトヲ勉ムベシ
- 一 農事講習所ハ校舎ヲ常設シテ講習ヲ爲スト適宜ノ季節場所ヲ撰ンテ講習ヲ爲ストハ一ニ地方ノ便宜ニ任ズ

- 一 農事講習所ニ於ケル授業ハ勉メテ平易ナル講話体ヲ用ヒ教科目ハ濫ニ其數ヲ増サズ補助教科ハ成ルベシ農事専門教科ヲ講スルニ方リ之ヲ引續教授スルヲ可トス然レドモ地方ノ情況ニヨリ特ニ補助教科目ヲ設置スルトキハ其講習ハ可成農事ニ關係アル事項以外ニ涉ラザルヲ要ス

●實業教育費國庫補助法

農ニ帝國議會ノ協賛ヲ得タル實業教育費國庫補助法案ノ本文及ヒ理由書ハ左ノ如シ

- 第一條 實業教育ヲ奨励スル爲ニ國庫ハ毎年度金十五万圓ヲ支出シテ其費用ヲ補助スヘシ
- 第二條 公立ノ工業農業商業學校徒弟學校及實業補習學校ニシテ實業ノ教育ニ効益アリト認ムルトキハ文部大臣ハ其學校ニ補助金ヲ交付スヘシ
- 地方官廳ノ認可ヲ經タル農工商組合ニ於テ設立シタル實業學校ハ文部大臣ノ特別ノ認定ニ依リ前項ニ準スルコトヲ得
- 第三條 各學校ニ交付スル補助金ハ其設立者ノ負擔額ト同額以內ニ限

農報第二號

第四條 補助ヲ受クヘキ學校ハ文部大臣ノ認定シタル學則ニ依リ及同
 大臣ノ定ムル必要ノ條件ヲ充スモノニ限ル

第五條 此ノ法律ニ依リ補助ヲ受クル學校ノ設立者ハ補助年期間其ノ
 學校經費ヲ繼續支出スルノ義務アルモノトス

第六條 各學校ニ補助金ヲ交付スルハ五個年ヲ以テ一期トス滿期ノ後
 必要ニ依リ仍之ヲ繼續スルコトヲ得但文部大臣ニ於テ學校ノ管理不
 適當ナリト認メタルトキ又ハ第四條其ノ他文部大臣ノ定ムル所ノ規
 則ニ違背シタルトキ又ハ第五條ノ義務ヲ尽スコト克ハサルトキハ補
 助年期間ト雖補助ヲ廢シ若クハ停止スルコトヲ得

第七條 第二條ニ掲クル學校ノ教員ヲ養成スルノ必要アルトキハ文部
 大臣ハ第一條ニ掲クル金額ヨリ十分ノ一以内ヲ支出シ其費用ニ充ツ
 ルコトヲ得

第八條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
 附則

第九條 此ノ法律ハ明治二十七年九月一日ヨリ施行ス

理由書

農報第二號

國家ノ富力ヲ發達セシメント欲セハ先ツ實業ノ進歩ヲ圖ルヲ要スルハ
 疑ヲ容レス願フニ本邦工業其ノ他各般ノ實業ハ自ラ固有ノ慣習技能ア
 リト雖未タ近世文明ノ進局ニ伴ヒ學術ノ結果ヲ利用スルノ地ニ到着セ
 ズ往々舊慣ニ泥ミ仍劣等ノ地位ニ停止スルモノアルヲ免レズ實業ノ改
 良進歩ヲ圖ルハ實ニ今日ノ急務ニシテ其方法一ニシテ足ラズト雖實業
 教育殊ニ其ノ初等實業教育ニ基カサルベカラス實業ノ教育ハ數種ノ實
 業學校ノ施設ニ依リテ其効用始メテ完キヲ得ヘク而シテ實業學校ノ程
 度ニ等差アリテ現ニ官立ニ係ルモノハ概テ高等ニ屬シ低度ノ公立學校
 ハ未タ各地方ニ偏カラス蓋實業者ノ十分ニ其ノ必要ヲ覺知セサルニ係
 ルト雖モ亦其ノ經費ニ乏シクシテ設備ヲ完整スルコト克ハサルニ因ル
 モノ多シ

之ヲ歐洲ノ近事ニ徵スルニ工業教育ヲ振作シ以テ國ノ富力ヲ増進スル
 ノ方便トナスモノ各國比々相倣ヒ盛ニ科學應用ノ効果ヲ收メテ以テ富
 強ノ場ニ競争セザルハナシ願ヒテ我國ノ現況ヲ觀ルニ封建ノ餘習ハ一
 般人心ヲシテ生産ニ關係ナキ高尚ノ學問ヲ過重セシムルノ弊ナシトセ

號二第報農

飯石郡	大原郡	仁多郡	能義郡	意宇郡
陸 粳 梗 稻 米 米	陸 粳 梗 稻 米 米	陸 粳 梗 稻 米 米	陸 粳 梗 稻 米 米	陸 粳 梗 稻 米 米
計	計	計	計	計
三、五七五二	二、九八二五 三、三九三二 二八二〇	二、五一一七 二、七三〇六 二五一九	四、九九八二 二、三二九九 一八一八	一、一六三八 三、五四〇八 二、三三三九
三八、一四六	三三、一七一 三五、二一四 二、九三二	三一、二六〇 三〇、四一五 二、七五六	七三、七四六 二九、〇八〇 二、一八〇	一四、一一〇 四四、五九七 二、九〇三
一〇六七	一一、一一二 一〇、六九 一〇、四〇	一一、二四五 一一、一三 一〇、九四	一四、七五 一二、五七 一九九	一一、二一三 一一、二六〇 一一、二四一

號二第報農

ス隨テ少壯者ヲシテ徒ニ空論ニ馳セ生産ニ必要ナル實業ヲ遺忘シ又ハ
忌避セシムルニ至ル今此ノ趨勢ヲ變シテ教育ト生産富カトヲ相併行セ
シメ教育ヲ以テ富強ノ源タラシメントセハ實業教育ヲ獎勵スルヲ以テ
緊要ノ方法トモナルコトヲ得ヌ殊ニ初等工業教育ヲ獎勵シテ地方ノ設
立ヲ補助保護スルヲ以テ急務トス是レ實業學校補助法ヲ設クルノ今日
ニ必要ナル所以ナリ

島根縣米穀作付段別及收穫石高概算表 明治廿六年分

國名市郡名	種類	本年作付段別	本年收穫高	一段歩收穫高
秋鹿郡	陸 粳 梗 稻 米 米	一、〇五五七 一〇八一	一、二四七	一一、五四
島根郡	陸 粳 梗 稻 米 米	二、五五二七 二、三三一九 二一九八	四一、一二三 三七、八三四 三、二八九	一六、一一二 一六、二二 一四、九七
松江市	陸 粳 梗 稻 米 米	五二五 四九〇	一、〇二九 五二	二一、〇〇 二〇、八〇

號二第報農

隱		見		合		美		美	
穩	同	合	處	美	美	美	美	美	美
地	吉	計	足	濃	濃	濃	濃	濃	濃
計	小麥	大麥	計	小麥	大麥	計	小麥	大麥	計
四三六五	五一五	三八五〇	八四〇七	三六七八	六二九一	三六七八	二四二一	六一九	三三九〇
三、八五四	一三六	三、七一八	二、六九四	四一九	五〇一	二、六九四	一、七七四	五〇一	二、六九四
八八二	二六四	九六五	八六〇	七三三	八〇九	八六〇	八〇九	八〇九	八八〇
四二	八三	四二	三三〇	四七	二六八	三三〇	二六八	二六八	六〇九三
二九	七〇	二九	一〇〇	四〇	二六二	一〇〇	二六二	二六二	六、一一〇
六九〇	八四三	六九〇	七六九	八五	八三三	七六九	八三三	八三三	〇〇四四
四四〇七	四七二四	三八九二	三九四四	六八五	九三四	三九四四	九三四	九三四	〇〇一六
三、八八三	二、九九八	三、七四七	二、五三八	四、四七七	五、六九九	二、五三八	四、四七七	五、六九九	五、九八二

四十三

號二第報農

那		邑		石		安		通		合		神	
賀	智	安	瀨	瀨	瀨	瀨	瀨	瀨	瀨	瀨	瀨	瀨	瀨
小麥	大麥	計	小麥	大麥	計	小麥	大麥	計	小麥	大麥	計	小麥	大麥
三六三四	一六三六	二、八三〇	一六九六	一二四九	二、八三〇	九〇九	八八八五	四、二九六	一四〇〇	六四	一、四〇〇	一、八五三五	三、六二二
二、五六四	一、二二六	六、二九三	六八三	五九六	六、二九三	六四九	五、〇一四	一、〇一四	八二一	七六一	二、三六六	三、六二二	六、二二二
七〇六	七四九	五三二	四〇三	四七八	五三二	七〇	九六四	〇四九	八九〇	五八六	九二〇	〇八三	二、七五
一九七	二五〇	一、四〇〇	六一一	一七八三	一、四〇〇	三〇二	七七四六	四四一五	二五七	四〇	三、一七一	九、八七二	六、一〇七
一五四	一四五	五、九七七	三七〇	九九六	五、九七七	五三	四、六一一	二、八五二	一四一	三〇	三、〇〇五	一、三一九	五、〇七八
七八一	五八〇	六〇一	五八九	五九五	六〇一	一七五	六二二	六四六	九一六	五四九	九四八	〇三九	八、三二二
三八三一	一八八六	二、三〇七	三〇三二	六六三一	二、三〇七	一、二二一	一、〇七六	八七一	一、八三六	一、〇四	一、六五七	四、九六七	二、八七〇
二、七七八	一、三七一	一、〇五三	一、〇五三	九、六二五	一、〇五三	六九八	九、一七八	七、三五七	九六二	一〇六	一、五三七	五、〇五三	八、七九三

四十二

號二第報農

總計	合 計		知 夫		海 士	
	大麥	小麥	大麥	小麥	大麥	小麥
計	二、四一三、六一六、三七〇	二、九二八、一、二四六	八七〇、五、八〇四	七、八三、三五〇	一、二一六、五〇五	一、二一六、五〇五
裸麥	一、四三〇、一三三、九九八	四七七、二五八	〇、七三一、一四八、六六六	一、三三、六	〇	〇
小麥	一、〇八三、四八二、三七二	二、四五〇、八八八	八七〇、五、八〇四	七、八三、三五〇	一、二一六、五〇五	一、二一六、五〇五
計	六、七七八	四、二二六	六、六六六	四、四四七	四、一五七	四、一五七
大麥	九、三三七、三〇五、八三六、一一九	一、八五	七、一七	四、四	一、六	一、六
小麥	八、七七一、〇九三、〇八、四六八	一、〇	八、七七一、〇九三、〇八、四六八	二、七七六、一、八一	二、七七六、一、八一	二、七七六、一、八一
計	一、八、四七五、七、一六五、五三三	八、九六五、六六六、四四六、三九八	一、八、四七五、七、一六五、五三三	八、九六五、六六六、四四六、三九八	一、八、四七五、七、一六五、五三三	一、八、四七五、七、一六五、五三三

本年麥作付反別ハ二萬四千五百拾貳町壹反步收穫石高ハ貳拾壹萬千九百貳拾壹石トス而シテ其作毛ハ播種以來氣候概シテ惡シク降雨多クシテ生育充分ナラス加之昨年末ハ早クヨリ降雪アリテ且積雪多ク隨テ株根腐敗セシモノ少クナラス然レトモ出穂前ヨリ天候順ニ歸シ

四十四

號二第報農

● 牝牛去勢ニ就キテ勸誘

ルヲ以テ稍出來直リヤモ雪害ヲ回復スルニ至ラス其結果充分ナラス收穫ノ歩合ハ平年作ニシテ前年ニ比スレハ一割三步強ノ減少ナリ

牛種ノ蕃殖上ヨリ多數ノ牝牛ヲ屠殺スルハ農業經濟ノ宜キヲ得タルモノニアラス然ルニ近來社會ノ發達ニ伴ヒ屠肉ノ如キモ自然其系質ヲ撰フヨリ全國屠牛ノ總數ヲ見ルニ牝ハ稍牝ニ超過スルモ良肉需要ノ地方ニ於テハ牝牛ヲ屠殺スルコト牝牛ニ數倍スルノ實況ナリ現ニ去ル廿四年中東京府下ニ於ケル屠牛ノ總數一萬二千六百四十一頭ノ中牝牛九千六百十頭神奈川縣下ニ於テハ六千五百十六頭ノ中牝牛四千八百七十頭兵庫縣下ニ於テハ八千三百九十七頭ノ中牝牛五千八百八十八頭ニ及ヘリ就テハ飼牛者ハ此際社會ノ進退ニ應スヘキ肉牛増殖改良ノ方法ヲ講スルハ目下必須ノ事ニシテ其方法中割九割去法ヲ措キ他ニ良法アルヲ見ス蓋シ牝牛去勢スルノ利ハ早熟肥腹ノ性ヲ促シ管ニ其肉質ノ柔軟美味増ント牝牛ニ劣ラサルノコトヲナス其價格ハ普通ノ牝牛ヨリ大凡二三割以上ノ高價ヲ占メ兼テ稟性ヲ溫和順良ナラシム從テ使役ニ便ニ

四十五

靴ト同收シ得ルノ益アルヲ以テ泰西ニ於テ夙ニ之ヲ行ヒ種牛ノ外ハ一切杜撰ヲ去勢スルノ良慣習アリ本邦ニ於テモ之ヲ各地ニ普及セシメ今後可成杜撰ニ去勢術ヲ施スニ至ラハ肉用及使役上農家經濟ニ裨益スル所不尠候ニ付此旨御了知増殖改良上企圖相成度今般其筋照會之趣有之此段及御謝候也

明治廿七年九月十五日

松江市役所

出雲有志地主會御中

●第七回農産品評會開設

本會第七回農産品評會ヲ松江市殿町勸業展覽場構内ニ於テ開設候ニ付有志諸君ハ成ルヘク御出品且御參觀アラシコトヲ希望ス就テハ出品解説ハ左ノ半用紙へ詳細記入之上物品ト同時ニ本會へ御差出相成度候也

出品種類 米、大小麥、大小豆、蔬菜、果實、綿、製茶

出品受入期 十二月一日限リ尤モ蔬菜ハ開會前迄

開會期日 十二月七日ヨリ十一日マデ五日間

○品評會規則摘要（出品員數）

- 一 實ヲ以テ稱スルモノハ 三百目以上五百目迄 一斤同 二斤以上五斤迄
- 一 升同 二升以上三升迄 一個同 五個以上十個迄
- 一 一枚同 五枚以上十枚迄 一本同 五本以上十本迄

前項ノ規定ニ因リ難キモノハ臨機ノ取扱ヲナスヘシ且右ノ品物ニシテ故ニ精品ヲ撰擇製造スル等ノ所爲アルモノハ其出品ヲ排斥シテ陳列スルコトヲ許サス

明治二十七年七月 日

松江市殿町

出雲農會

出品解説書用紙		出品主	物名	數量	栽培反別及收穫(製造品ハ一ケ年(農高))	賣非ノ區別
國	郡	村大字				

前項ノ外必要事項ハ可成備考欄内(詳記スヘシ)

●新刊農書紹介

增訂日本肥料全書	再版一冊	酒匂 常明著	正價	八圓十錢	東京々橋區南傳馬町二丁目十番地
米作新論 完	四冊一冊	同 著	正價	四圓十錢	東京赤坂區赤坂溜池町
有用植物圖說	八冊	田中 芳男 著	會員稅	六圓十錢	有 隣 堂
實用肥料書	一冊	小野 一慈 著	郵稅	四圓十錢	大日本農會
實地應用染法全書	一冊	望月紫霞三著	郵稅	四圓十錢	有 隣 堂
農工商節用字類	一冊	青木彦五郎著	郵稅	四圓十錢	同
農事調查表	二冊	梅原 寬重著	郵稅	四圓十錢	同
採掘特許一覽表	大本一冊	農務局 刊行	郵稅	四圓十錢	同
農業振興策 石版 圖入	一冊	嶺山局 編	郵稅	四圓十錢	同
牧畜全書	二冊	樋田 魯一著	郵稅	四圓十錢	同
		農務局 出版	郵稅	四圓十錢	同

號二第報農

號二第報農

採卵需用養鶏新書	一冊	永井要一 編	定價	五圓十錢	同
農氏通俗農業必携	四冊	關 澤藏 譯	定價	五圓十錢	同
紀州柑橘錄	一冊	農務局 出版	定價	七圓十錢	同
茄子の栽培	一冊	桂 榮著	定價	四圓十錢	同
小學農書	二冊	吉田水次郎著	定價	二圓十錢	同

●島根郡本庄村私立玄米品評會規則

◎第一章 綱領○第一條 本會ハ明治二十五年一月四日ヨリ六日マテ本庄尋常小學校内ニ於テ開設ス○
 第二條 本會ノ出品ハ明治二十四年本村内ニ於テ所産ノモノニ限ル○第三條 出品ノ數量制限左ノ如シ
 、玄米壹種ニ付壹升○第四條 開會中有益農産物ノ陳列場ヲ開ク何種ニ限ラス有益ト認ムルモノハ持參
 シテ本會事務所ヘ申出ヘシ。但本場陳列品ハ審査ヲ加ヘス○第五條 出品運送費ハ出品主ノ自辨トス。
 出品飾付場内整理及陳列費ハ本會之ヲ支辨ス○第六條 本會ノ事務ハ委員ヲ設ケ之ヲ處辨ス○第七條
 出品ハ事務所ニ於テ相當保護ヲ爲スト雖萬一盜難風火震災等避クヘカラサル事故ニ依リ損傷紛失スルハ
 ハ其實ニ任セス○第八章 審査○第八條 審査員ハ本會々長ノ特撰ヲ以テ定ムルモノトス○第九
 條 審査員ハ審査長ノ指揮ニ隨ヒ出品ヲ鑑定シ其優劣附点表ヲ作り審査長ニ差出シ審査長ハ附点表ト出
 品解説書トヲ調査シ復賞ノ等級ヲ擬案シ會長協議ノ上之ヲ決定スルモノトス。但審査員ハ自己出品ノ審査
 ニ與カルヲ得ス○第十條 審査例則ハ審査長ニ於テ之ヲ定ムルモノトス○第三章 復賞○第十一條 出

品優等ノモノニハ褒賞ヲ授與ス其等級左ノ如シ、一等賞 二等賞 三等賞○第十二條 一人ニシテ數種出品毎種優等ナルハ各相當ノ賞狀ヲ與フヘシト雖賞品ハ其中ニ就キ最優等ノモノニ授與スヘシ○第十三條 褒賞授與式ハ明治廿五年一月五日ヲ以テ執行スヘシ○第十五章 觀覽○第十四條 會場ハ毎日午前第八時ニ開キ午後第五時ニ閉ツ開會中ハ兼座ノ縱覽ヲ許ス。但會場ノ都合ニヨリ來觀者人員ヲ限リ又臨時來觀ヲ止ムルコトアルヘシ○第十五條 來觀者ハ每人入場券(券料ヲ要セス)ヲ携フヘシ。但入場券ハ入口ニテ受取出口ニ於テ看護人ニ返還スヘシ○第十六條 手荷物ヲ携帶シ又ハ畜類ヲ牽キテ入場スルヲ許サス○第十七條 場内ニ於テ吸煙シ或ハ粗暴ノ舉動ヲナスヘカラス○第十八條 來觀者ハ看護人ノ承諾ヲ經レニ非ラサレハ出品ニ手ヲ觸ルヘカラス○第十九條 場内ノ妨ケヲナスモノト認ムルハ入場ヲ許サス或ハ退場セシムルコトアルヘシ

●島根郡本庄村公立玄米共進會規則

○第一章 綱領○第一條 本會ハ明治二十六年一月六日ヨリ同八日マテ三日間本庄尋常小學校ニ於テ開設ス○第二條 本會ノ出品ハ明治二十五年本村内ニ所産ノモノニシテ一種類壹反歩以上ヲ耕作シ且五俵以上ヲ製成シタルモノニ限ル○第三條 出品ノ數量制限左ノ如シ、玄米一種ニ付一升○第四條 開會中有益農産物ノ陳列場ヲ開ク何種ニ限ラス有益ト認ムルモノハ持參シテ本村役場ヘ届出ツヘシ。但本場陳列品ハ審査セタルモノトス○第五條 出品運送費及出品飾附場内整理並ニ陳列費ハ本會之ヲ支辨ス○第六條 本會ノ事務ハ役場吏員ヲ以テ處辨スルモノトス○第七條 出品物ハ本村役場ニ於テ相當保護ヲ爲

ト雖モ萬一空難風火震災等避クヘカラサル事故ニヨリ損傷紛失スル時ハ其責ニ任セス○第二章 出品○第八條 出品人ハ別紙第一號書式ニ依ヒ出品米ノ名稱及反別等ヲ詳記セル届書ヲ作り二十五年十月十日限リ本村役場ヘ差出スヘシ○第九條 出品人ハ別紙第二號書式ニ依ヒ届書ヲ作り二十五年十二月十日限リ本村役場ヘ差出スヘシ○第十條 審査ヲ精密ナラシメンカ爲メ役場吏員ヲシテ第一號出品届書ニヨリ各大字ヘ出張實地ニ就キ精密調査スルモノトス○第十一條 審査ヲ精密ナラシメンカ爲メ役場吏員ニシテ出品人ノ家宅ニ就キ出品米一種類毎ニ製成米ノ俵數ヲ檢査シ其内ヨリ壹升宛ヲ抜キ取り持歸ルモノトス○第十二條 出品人ニ於テ出品セント欲スル製米ヲ檢査以前ニ販賣或ハ其他必要ノ件有之撤出センコトヲ申立ツルモノアル時ハ直ニ第十一條ノ手續ヲ履行シ出品人ニ差支ナカラシムルモノトス○第十三條 審査○第十三條 審査長審査員ハ村長ノ特選ヲ以テ定ムルモノトス○第十四條 審査員ハ審査長ノ指揮ニ隨ヒ出品米ヲ鑑定シ其優劣附点表ヲ作り審査長ニ差出シ審査長ハ出品解説書ヲ調査シ褒賞ノ等級ヲ提案シ村長協議ノ上之ヲ決定スルモノトス。但審査員ハ自己出品ノ審査ニ與カルヲ得ス○第十五條 審査例則ハ審査長村長ト協議ヲ遂ケ之ヲ定ムルモノトス○第四章 褒賞○第十六條 出品優等ノモノニハ褒賞ヲ授與ス其等級左ノ如シ、一等賞 二等賞 三等賞○第十七條 一人ニシテ數種出品毎種優等ナル時ハ各相當ノ賞狀ヲ與フヘシト雖モ賞品ハ其中ニ就キ最優等ノモノニ授與スヘシ○第十八條 褒賞授與式ハ明治二十六年一月八日ヲ以テ執行ス○第五章 觀覽○第十九條 會場ハ毎日午前第八時ニ開キ午後五時ニ閉ツ開會中ハ兼座ノ縱覽ヲ許ス。但會場ノ都合ニヨリ來觀者ノ人員ヲ限リ又臨時來觀ヲ止ムルコトアルヘシ

○第二十條 來觀者ハ每人入場券(券料ヲ要セス)ヲ携フヘシ。但入場券ハ入口ニテ受取リ出口ニ於テ看護人ニ返還スヘシ○第二十一條 手荷物ヲ携帶シ又ハ畜類ヲ牽キテ入場スルヲ許サス○第二十二條 場内ニ於テ吸煙シ或ハ粗暴ノ舉動ヲナスベカラス○第二十三條 來觀者ハ看護人ノ承諾ヲ經ルニ非ラサレハ出品ニ手ヲ觸ルヘカラス○第二十四條 場内ノ妨ケヲナスモノト認ムルハ入場ヲ許サス或ハ退場セシムルコアルヘシ

第一號書式
本庄村公立玄米共進會出品屆

字	番	字何々	何	名	稱	反	別	姓	名
同	同	何々	何	同	同	何反何畝歩	同	、、、、	、、、、
同	同	何々	何	同	同	何反何畝歩	同	、、、、	、、、、
同	同	何々	何	同	同	何反何畝歩	同	、、、、	、、、、

右ハ本庄村公立玄米共進會へ出品呈出ノ者前記之通ニ候也
明治二十五年十月十日

本庄村大字何區長

姓 名 〇

農報第二號

本庄村役場御中
第二號書式

本庄村公立玄米共進會出品反別及石數屆

出品米名稱	出品反別	出品製成米	姓	名
關取	何反何畝歩	何石何斗何升	、、、、	〇
田中	、、、、	、、、、	、、、、	〇
、	、、、、	、、、、	、、、、	〇
、	、、、、	、、、、	、、、、	〇

右ハ本庄村公立玄米品評會へ出品反別及石數取調候處前記之通ニ付此段及御届候也
明治二十五年十二月十日

本庄村何區長

何 某 〇

本庄村役場御中

有志地主農談會規約

○第一條 本會ハ農業上諸般ノ改良進歩ヲ謀リ傍ラ輸出米ノ聲價ヲ増進セシムルヲ以テ目的トス○第二條 本會ハ出雲國有志地主農談會ト稱ス○第三條 本會員タルモノハ専ラ親睦ヲ旨トシ平素氣脈ヲ通シ農事上ノ便利ヲ圖ルヘシ○第四條 本會ニ加盟ヲ請フモノアルハ幹事ノ紹介ヲ經テ會長ニ申出テ會長ハ各部幹事ノ意見ヲ徴シテ許否スルモノトス又事故アリテ除名ヲ乞フ者アルハ幹事ニ申立ツヘシ○第五條 一部毎ニ本會ノ支部ヲ置キ其發起ハ本會員之レニ任スヘシ○第六條 本會ニ會長一名ヲ置ク會長ハ本會諸般ノ事務ヲ總括シ傍ラ會員ノ懇親ヲ調和スヘシ○第七條 本會ニ幹事十一名ヲ置キ一市又ハ一郡ヲ以テ一部トナシ一部内ニ幹事一名トス○第八條 幹事ハ本會一部内ノ事務ヲ管掌シ傍ラ本會員ノ懇親ヲ調和スヘシ○第九條 幹事ハ每市郡内ノ會員互撰ヲ以テ之ヲ定ム其任期ハ二ケ年トス○第十條 本會開設ハ定期臨時ノ兩會トス○第十一條 定期會ハ春秋ニ開キ臨時會ハ會長ノ必要ト認ムル場合又ハ會員三分ノ一以上請求アル時ニ於テ之ヲ開クモノトス○但召集狀ハ會長ニ於テ開會日時ヲ定メ週クモ開會一週間以前之レヲ發ス尤臨時會招集ハ此限ニアラス○第十二條 定期會臨時會トモ開會地ノ部内幹事ニ於テ會場ヲ整理スヘシ○第十三條 會場ハ松江市トス○但會場ハ開會地幹事ニ於テ之ヲ定ム○第十四條 本會ノ談話ニシテ會員多數ノ同意ヲ得將來必要ト認ムル事ハ農談會ニ登載シ幹事ニ於テ之ヲ保存スヘシ○但時宜ニヨリ活版ニ付シテ會員ニ頒布シ以テ其記憶ニ存シ或ハ他ヲ勸誘スルノ便ニ供スルモノトス○第十五條 定期會ニ於テハ農學士或ハ實業熟練者ヲ聘シテ演說又ハ講話ヲ請フアルヘシ○第十六條 開會中書記若干名ヲ雇聘スルアルヘシ○第十七條 病

氣故障等ニ依リ本會ニ出席シ能ハサル者ハ其事由ヲ會長ニ届出ヘシ○第十八條 會費ハ每會幹事ヨリ實費ヲ徵收スヘシ○第十九條 本規約ヲ更正増減セント欲スルハ會長ノ意見ト會員ノ申立トニ拘ラス必ラス總會ノ協議ヲ經ルモノトス○右會員協議ノ上決定ス依之署名捺印スルモノナリ

●出雲國有志地主農談會島根支會規約

○第一條 本會ハ農事上諸般ノ改良進歩ヲ圖リ傍ラ輸出米ノ聲價ヲ増進セシムルヲ以テ目的トス○第二條 本會ハ出雲國有志地主農談會島根支會ト稱ス○第三條 本會ハ島根郡有志地主ヲ以テ組織ス○但出作地主加盟スルコトヲ得○第四條 本會員タルモノハ親睦ヲ旨トシ智識ヲ交換シ左ノ綱目ニ注意シテ農事上ノ便利ヲ圖ル可シ一耕作法ヲ改良スルコト二青糶場ヲ設ケ良種ヲ選擇スルコト三米製ヲ精良ナラシムルコト四乾燥ヲ充分ナラシムルコト五修造ヲ改良スルコト六各種ノ米ヲ混淆セサルコト七貯藏法ヲ完全ナラシムルコト八故ヲニ水分ヲ和スル等不正ノ所爲ヲ爲サハルコト九土地ノ狀況ヲ觀察シ水田ヲ乾シニ毛作ヲナスコト十地質ニ適スル肥料ヲ施用スルコト十一米穀改良獎勵法ヲ設クルコト十二米質精良ナルモノヲ販賣スルハ本會員ノ住所姓名ヲ記載シタル中札及ヒ差札ヲ附スルコト○第五條 本會ハ出雲國有志地主農談會ト氣脈ヲ通ス可シ○第六條 本會ニ會長壹名ヲ置ク會長ハ本會諸般ノ事務ヲ總括整理スルモノトス○第七條 本會ニ副會長壹名ヲ置ク副會長ハ會長ノ事務ヲ補佐シ會長不在ノ時ハ會長ノ代理スルモノトス○第八條 本會ニ幹事ヲ置キ則一村ニ壹名宛トス○第九條 幹事ハ其村内ニ於テ本會ノ部會ヲ設ケ該會ニ關スル事務ヲ負擔シ傍ラ本會ノ事務ヲ分任スヘシ○第十條 會長副會長ハ總會ノ互撰幹事ハ其村内會員ノ互撰ト

農報第二號

ス其任期ハ各二ケ年トス○第十一條 本會ニ書記登名ヲ履フコト可シ○第十二條 幹事部會ヲ開クハ其部内ニアル本會員之ヲ助ク可シ○第十三條 本會ハ春秋二期ニ開ク然レハ會員過半ノ請求アルカ又ハ會長ニ於テ必要ト認ムルキハ臨時開會スルコトアル可シ。但招集狀ハ會長ニ於テ會場並ニ開會期日ヲ定メ開會五日前ニ之ヲ發ス可シ又會場ハ便宜ニ依リ其地方ノ幹事ニ整理セシムルコトアル可シ○第十四條 本會ハ聯合會ヲ開クコトアル可シ○第十五條 本會ハ會員出席三分ノ一ニ滿タサレハ開會セサルモノトス○第十六條 本會ノ談話ニシテ會員ノ同意ヲ得將來實行スルコトハ農談錄ニ登載シ會長ニ於テ保存スヘシ。但便宜ニ依リ印刷ニ付シテ會員ニ頒布スルコトアルヘシ○第十七條 會所ハ松江市本庄ノ二ヶ所トス○第十八條 病氣故障等ニ依リ本會ニ出席シ能ハザルモノハ遅クモ開會前日迄ニ會長ニ届出ヘシ。但突然ノ事故ハ此限ニアラス○第十九條 本會ニ加盟セント欲スルモノハ其村幹事ノ紹介ニ依リ會員ノ同意ヲ得入會スヘシ又除名ヲ請フモノハ其理由ヲ幹事ニ申出可シ○第二十條 會費ハ幹事ヨリ徵收ス可シ○第二十一條 本規約ヲ改正シ又ハ増減セント欲スルハ必ス總會ノ協議ヲ經ルモノトス

●出雲國有志地主農談會憲章支會規約

○第一條 本會ハ農業上諸般ノ改良進歩ヲ謀リ傍ヲ輸出米ノ聲價ヲ増進セシムルヲ以テ目的トス○第二條 本會ハ出雲國有志地主農談會憲章支會ト稱ス○第三條 本會會員ハ各村ヨリ三名乃至五名ノ有志者ヲ以テ組織ス○第四條 本會會員タル者ハ親睦睦ヲ旨トシ常ニ氣服ヲ通シ居村ニアリテハ目的ヲ達スル爲更ニ村會ヲ開クヘシ○第五條 本會ニ加盟セントスル者ハ幹事ノ紹介ヲ以テ會長ニ申出證書ヲ受クヘシ。但除名セントスル者ハ證書ヲ返還スヘシ○第六條 本會ハ會長登名副會長登名ヲ置キ那會員之ヲ撰舉シ其職掌左之通り。但任期ハ二ケ年トシ滿期再撰スルヲ得一本會諸般ノ事務ヲ總括ス一豫而出雲國農談會ト氣服ヲ通シ専ラ支會ノ進路ヲ圖ル者トス一副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ代理ス○第七條 會長ハ規則ノ更正ヲ必要ト認ムルキハ幹事ノ評決ヲ徵ス可シ○第八條 本會ハ毎村ニ幹事登名宛其村内會員ノ互撰ヲ以テ則チ十六名ヲ置キ任期ハ壹ケ年トス。但滿期再撰スル事ヲ得○第九條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ其村内ノ事務ヲ處辨シ諸般ノ實況ヲ會長及村會會員ニ報導スル者トス○第十條 書記ハ會長之ヲ特撰ス。但開會中必要ト認ムルキハ書記若干名ヲ聘スルコトアル可シ○第十一條 本會ハ通常臨時ノ兩會トス通常會ハ每年春秋ノ兩月臨時會ハ會長ノ必要ト認ムルキ又ハ會員三分ノ一以上ノ請求ニヨリ之ヲ開ク者トス。但開會日時ハ週クモ一週間以前ニ會長ヨリ報導スヘシ○第十二條 本會ハ乃木村ニ開キ會場ハ幹事之ヲ整理スヘシ○第十三條 本會ハ會員ノ談話ヲ專ラトス或ハ農學士又ハ實業熟練者ヲ聘シ演說講話ヲ請フ事アル可シ○第十四條 本會ノ談話中必要ト認ムル事ハ會話錄ニ登載シ會長ニ於テ之ヲ保管スル者トス○第十五條 會員事故アリ出席シカダキハ事由ヲ具シ會長ニ届出ツ可ヘシ○第十六條 會費ハ本會會員ノ負擔トシ幹事之ヲ徵收ス可シ

●出雲國有志地主農談會能義支會規約

○第一條 本會ハ郡内有志地主ヲ以テ組織シ常ニ出雲國有志地主農談會ト氣服ヲ通スヘシ○第二條 本會ハ出雲國地主農談會能義郡支會ト稱ス○第三條 本會ハ農業上諸般ノ改良進歩ヲ旨トス特ニ本郡產米

農報第二號

ノ聲價ヲ増進セシムルヲ以テ目的トス○第四條 本會ハ本郡農政ノ機關ト爲リ荷モ利害ノ關スル者ハ職トシテ之ヲ攻究シ又ハ相當ノ運動ヲ爲スコトアルヘシ○第五條 本會ハ會長副會長及各町村各登名宛ノ幹事ヲ置ク會長ハ本會全體ノ事務ヲ總括シ副會長之ヲ輔佐又ハ代理シ幹事ハ各町村ニ係ル會務ヲ分擔スル者トス○第六條 會長副會長ハ總會員ノ選舉ヲ以テ之ヲ定メ幹事ハ其町村會員ノ推選ニヨリテ之ヲ定ム。但任期ハ各二年トス○第七條 本會ハ每年春秋二期ニ之ヲ開ク。但會長ニ於テ必要ト認ムルハ臨時開會スルコトアルヘシ○第八條 本會々場ハ會長便宜之ヲ定メ週クモ一週間以前ニ會員ニ通知スヘシ○第九條 本會々費ハ本會員之ヲ負擔スヘシ。但臨時事業ハ必ス特別ノ方法ヲ設クルヲ要ス○第十條 本會ノ談話ニシテ多數ノ同意ヲ得將來必要ト認ムル事柄ハ之ヲ農談録ニ記載シ若シクハ活版ニ付シ會員ニ頒布スルコトアルヘシ。但時宜ニヨリ學士又ハ實業熟練者ヲ聘シ其講話ヲ乞フコトアルヘシ○第十一條 本會ニ加盟セントスル者ハ幹事ノ紹介ニ因リ會長ノ許可ヲ得テ入會スヘシ○第十二條 本規約ニ於テ更正増補ヲ要スル時ハ會員ノ協議ヲ經ヘシ

●出雲國有志地主農談會仁多支會規約

○第一條 本會ハ本部出雲國地主農談會ノ機關ト爲リ專ラ農業上諸般ノ改良進歩ヲ謀ルヲ以テ目的トス○第二條 本會ハ出雲國地主農談會仁多郡支會ト稱ス○第三條 本會ハ郡内ニ居住スル農業者ヲ以テ組織ス○第四條 本會々員ヲラント欲スルモノハ幹事ノ紹介ヲ經テ會長ノ許諾ヲ受クヘシ。但時宜ニ據リ會長ノ意見ヲ以テ附絶スルコトアルヘシ○第五條 本會ノ役員ヲ定ムル左ノ如シ、會長登名、副會長登名

、幹事拾名。但一村ニ各一名トス、書記貳名○第六條 會長及ヒ副會長ハ幹事之レヲ選舉ス幹事ハ總會員之レヲ選舉スヘシ。但任期ハ各貳年トス○第七條 書記ハ會長ノ特選ニ任ス○第八條 會長ハ本會諸般ノ事務ヲ總理ス且本部ニ對シ本會ヲ代表スルモノトス○第九條 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長不在ノ時ハ其代理ヲ爲スヘシ○第十條 幹事ハ會長ノ指揮ニ從ヒ處務ヲ分擔ス傍ラ部内會員ヲ勸奨シテ本會ノ目的ヲ達スル事ヲ勉ムヘシ○第十一條 會議ヲ開ク毎ニ會長ハ幹事ノ内一名ヲ指定シテ議長トナス且會場ヲ整理セシムヘシ○第十二條 書記ハ會長及ヒ議長ノ指揮ニ從ヒ一切ノ記録ニ從事スヘシ○第十三條 本會ハ定期臨時ノ二種トス○第十四條 定期會ハ春秋ニ開キ臨時會ハ會長ノ必要ト認ムル時若クハ會員五名以上ノ請求アルキニ於テ開クヘシ。但會長ハ開會ノ日時ヲ定メ週クモ五日以前ニ幹事ヘ報告ス幹事ハ直ニ之レヲ部内會員ヘ通報スヘシ。但臨時會ノ報告ハ五日以前ノ限ニアラス○第十五條 會場ハ横田町三成町ノ二ヶ所トス○第十六條 每會必ラス問題ヲ設ケテ談話ヲ爲スヘシ而シテ談話ノ中甲乙異說アルモ敢テ之レカ可否ヲ徹セス其要領ハ悉ク農談録ニ記録シテ會長之レヲ保存スヘシ。但時宜ニヨリ本部或ハ知事部長ヘ報告スルコトアルヘシ○第十七條 談話ノ事項ニシテ實地有益ト認ムルモノハ會員タルモノ皆必ラス實行スヘシ。但其結果ハ次會ニ於テ會長ヘ報告スヘシ○第十八條 農業上試驗ヲ要スルコトアルキハ特ニ委員ヲ設ケ之レヲ行フヘシ此場合ニ於テハ費用ノ幾分ヲ本會ヨリ辨償スルコトアルヘシ○第十九條 會長以下幹事ハ無給トス書記ハ日當ヲ給與ス○第二十條 會費ハ每會幹事ヨリ豫算ヲ以テ徵收スヘシ○第二十一條 會員ニシテ若シ退會セント欲スルモノアルキハ總會ノ承諾ヲ得テ後ヲ退クコトヲ

得○第二十二條 本會則ヲ更正セント欲スルハ必ラス總會ノ協議ヲ經ルモノトス 六十

●出雲國有志地主農談會大原支會規約

○第一條 本會ハ農業上諸般ノ改良進步ヲ謀リ傍ラ輸出米ノ聲價ヲ増進セシムルヲ以テ目的トス○第二條 本會ハ大原郡有志地主農談會ト稱ス○第三條 本會ハ出雲國有志地主農談會ト氣脈ヲ通スルモノトス○第四條 本會員タルモノハ専ラ親睦ヲ旨トシ平素氣脈ヲ通シ農事上ノ便利ヲ圖ルヘシ○第五條 本會ニ加盟ヲ請フモノアルハ幹事ノ紹介ヲ經テ總會ノ評諾ヲ受クヘシ又事故アリテ除名ヲ乞フ者アルハ幹事ニ申立ツヘシ○第六條 一村毎ニ本會ノ支部ヲ置キ其發起ハ本會員之レニ任スヘシ○第七條 本會ニ會長一名ヲ置ク會長ハ本會諸般ノ事務ヲ總括シ傍ラ會員ノ懇親ヲ調和スヘシ○但會長ハ會員之ヲ撰舉シ其任期ハ二年トス○第八條 本會ニ幹事十一名ヲ置キ一村ヲ以テ一部トナシ一部内ニ幹事一名トス○第九條 幹事ハ本會一部内ノ事務ヲ管掌シ傍ラ本會員ノ懇親ヲ調和スヘシ○第十條 幹事ハ每村部内ノ會員互撰ヲ以テ之ヲ定ム其任期ハ二年トス○第十一條 本會開設ハ定期臨時ノ兩會トス○第十二條 定期會ハ春秋ニ開キ臨時會ハ會長ノ必要ト認ムル場合又ハ會員三分ノ一以上請求アル時ニ於テ之ヲ開クモノトス○但招集狀ハ會長ニ於テ開會日時ヲ定メ遅クモ開會一週間以前之レヲ發ス尤臨時會招集ハ此限ニアラス○第十三條 定期會臨時會トモ開會地ノ部内幹事ニ於テ會場ヲ整理スヘシ○第十四條 會場ハ大東木次加茂ノ三ヶ所トス○但會席ハ開會地幹事ニ於テ之レヲ定ム○第十五條 本會ノ談話ニシテ會員多數ノ同意ヲ得將來必要ト認ムル事ハ農談録ニ登載シ幹事ニ於テ之ヲ保存スヘシ○但時宜ニヨリ活版

ニ付シテ會員ニ頒布シ以テ其記憶ニ存シ或ハ他ヲ勸誘スルノ便ニ供スルモノトス○第十六條 本會ハ農學士或ハ實業熱心者ヲ聘シテ演說又ハ講話ヲ請フコトアルヘシ○第十七條 開會中書記若干名ヲ雇聘スルコトアルヘシ○第十八條 病氣故障等ニ依リ本會ニ出席シ能ハサル者ハ其事由ヲ會長ニ届出ヘシ○第十九條 會費ハ每會幹事ヨリ實費ヲ徴收スヘシ○第二十條 本規約ヲ更正増減セント欲スルハ會長ノ意見ト會員ノ申立トニ拘ラス必ス總會ノ協議ヲ經ルモノトス右付員協議ノ上決定ス依之署名捺印スルモノナリ

●鳥根郡西川津農事組合規約

○第一章○第一項 本組合ハ鳥根郡西川津村市成橋本大内谷ヲ限リトス○第二項 該規約ノ目的ハ小作人ヲ愛恤シ勤惰ヲ賞懲シ總ヘテ小作ニ係ル事柄ハ規約ニ照シ公明ニ處置シ小作人ヲ獎勵シ専ラ農事改良ヲ進メ殖産増獲以テ國益ヲ計リ地主ノ權利ヲ全フスルニアリ○第三項 愚作ハ一年一作ヲ限リトス毎年陰曆正月十一日ヲ以テ亦更ニ小作權ヲ授與ルモノトス○第四項 豫テ小作勉勵ノ者ハ賞與スルハ正月七日賞與品ハ其地主直接ニ授與シ十一日ニハ組合地主ノ宅ニ賞與人名ヲ揭示スルモノトス○但賞與ハ組合地主ヘ協議ノ上決定ス可シ○第五項 苗代早損潮枯等アルハ地主ニ於テ臨時豫備苗ヲ作り小作人ニ與フヘシ○第六項 蟻鼠驅除ノ用料油等ハ地主ヨリ與フルモノトス其他良法ヲ發見シ爲メニ入費ヲ要スルコトアルハ相應地主ヨリ償却スルコトアルヘシ○第七項 暴雨溢水ノ節排水費ハ勿論堤防崩レ田地砂入等ハ地主ニ於テ負擔ス可シ○第八項 年早魃ニ際シ水車ヲ用#遺隔ノ地ヘ河水ヲ灌溉スルコトアルハ慰勞ト

シテ酒食ヲ與フルコアル可シ○第九項 淋雨大風蝗蛾ノ難ニ罹リ天然ノ凶作ニシテ小作人ノ求メニ應ジ
 毛見ノ上懸米ノ幾分ヲ免シ若シ毛見ノ苛酷ニヨルカ又ハ小作人ノ苦情ヨリ再見ヲ要スルキハ規約取締人
 二名已上ノ立合ヲ乞フ可シ○第十項 收納期限未納ノ者アレハ其情願ニヨリ翌年正月七日マテ猶豫スル
 コアルヘシ若シ當日弁償セサルモノハ直ニ小作權ヲ沒收シ爾後一ケ年ニシテ猶弁償セサルモノハ組合
 地主ヨリ他ノ小作權ヲモ沒收ス可シ。但火災水難疫病等ニ罹リ困難ノ實狀ヲ認ルトキハ限外トス○第十
 二項 小作人ハ地主ノ意ヲ体シ耕耘播種ノ時節ヲ誤ラズ肥料ノ適否ニヨリ灌溉ノ便ヲ考ヒ農作ノ
 道ヲ計リ買米上納等丁寧親切以テ小作ノ義務ヲ竭ス可シ○第十二項 苗代ハ小作人ノ適宜ト雖ハ農稼ノ本
 元タルモノナレハ最モ期節ヲ誤ル可カラズ。但時下シノ節ハ八十八夜三日前トス○第十三項 耕ハ概テ三
 度ヲ通例トス必ス欠ク可カラズ。但植付ノ後地主ニ於テ巡檢スルモノトス○第十四項 肥料ハ土地適當ノ
 モノヲ以テ植付前ニ施シ總ヘテ小作人ノ自費タルヘシ○第十五項 耘ハ概テ三四回トシ若シ之ヲ欠クハ
 ハ秋穫ニ害アリ依テ欠ク可カラズ。但成業ノ後地主巡檢ス可シ○第十六項 盛夏ノ時池水河水ヲ灌溉スル
 ハ肥料ニモ勝ル養分ナレハ必ス怠ル可カラズ○第十七項 定例稻番ハ總ヘテ小作人ノ負擔タル可シ。但臨
 時回番ヲ要スルハ其日當地主ヨリ償フコアルヘシ○第十八項 刈稻乾稻等盜難ニ罹ルキハ無論小作人ニ
 於テ償フ可シ。但情狀ヲ斟酌シ幾分地主ヨリ償フコアル可シ○第十九項 年買米ハ粉糶小米ヲ除キ可成
 的其土地ニ産スルモノヲ納ム可シ。但非常醜質ノ米ハ納ム可カラズ○第二十項 繩俵ハ特ニ新製物ヲ用キ
 五ヶ所結ニ限ル可シ決シテ古俵ヲ再用ス可カラズ○第二十一項 收納ハ稻ノ早晚ニヨリ拵立次第順次納ム

可シ陽曆十二月滿日限リ皆済ス可シ。但金納ハ聊カモ依頼ニ應セサルモノトス○第三章○第一項 規約
 組合地主ハ毎年一回陰曆正月七日靈感寺ニ會合シ其實効ヲ取調ヘ規約ノ事項ヲ加除スルコアルヘシ○第二項
 本組合ハ取締人五名大内谷一名市成 月七日置キ會場ヲ整理シ又豫テ地所ニ係ル事ヲ掌ラシム。但取締人ハ一
 年限リ擧ガテテ替代ス○第三項 取締人ハ地主巡檢ノ上成業ノ良否ヲ告グルルハ小作ヲ賞懲スルヲ兼任
 ス○第四項 該規約ハ組合地主ノ協議了結ノ日ヨリ實行スヘシ

●出雲國有志地主農談會飯石支會規約

○第一條 本支會ハ本郡普通農事ノ改良ヲ圖リ傍ラ産米ノ整備ヲ増進セシムルヲ目的トス○第二條 本
 會ハ出雲國有志地主農談會飯石支會ト稱ス○第三條 本會々場ハ掛合村大字掛合町ニ置ク○第四條 本
 支會ハ各村ヘ部會ヲ置ク但二村以上合併シテ一部會ヲ置クコトヲ得○第五條 會員ハ支會々員部會々員ノ
 二種トス但支會員ハ必ス其部ノ部會員タルヘキモノトス○第六條 會員ハ本會ノ目的ヲ贊成スルモノニ
 シテ會長ノ承認ヲ得タルモノニ限ル○第七條 支會員タラント欲スルモノハ部會長ノ紹介ヲ以テ支會長
 へ申出證書ヲ受ケ其退會セントスル者ハ部會長ヲ經テ證書ヲ返付スヘシ○第八條 會員タルモノハ親和
 睦睦ヲ旨トシ常ニ本會ノ目的ヲ達スルコトニ志ナスヘシ○第九條 本會ニ左ノ職員ヲ置ク、支會長登名本
 會一切ノ事務ヲ總理シ兼テ支會ノ會長トナルモノトス幹事或名支會長ノ指揮ニ從ヒ支會ノ庶務出納等ノ
 事ヲ分掌シ兼テ支會長事故アルハ其代理ヲナスモノトス部會長拾六名支會長ノ指揮ニ從ヒ各部會ノ事
 務ヲ管理シ且部會集會ノ會長トナルモノトス理事無定員部會此ノ指揮ニ從ヒ部會ノ庶務出納等ノ事ヲ掌

農報第二號

リ兼テ部會長事故アルハ其代理ヲナスモノトス書記無定員○第十條 會長幹事ハ支會々員互撰ニヨリ部會長理事ハ部會々員ノ互撰ニヨリ之ヲ定ム任期ハ各一ケ年トス○第十一條 書記ハ豫メ之ヲ設ケス其之ヲ要スル場合ニ於テ支會長若クハ部會長之ヲ特撰スルモノトス○第十二條 職員中欠員ヲ生シタルトキハ改選迄ノ間ハ當初撰舉ノ際順次投票多數ノ者ヲ以テ之ニ充ツ○第十三條 職員ハ總テ俸給ナキモノトス。但時宜ニヨリ報酬ヲ與フルコトアルヘシ○第十四條 支會ノ集會ハ通常會及ヒ臨時會ノ二トス○第十五條 通常會ハ毎年二度春秋ニ開キ左ノ諸項ヲ舉行スルモノトス。但會場ハ トス一會務ノ報導一職員ノ改撰(秋季)一議題討論一農務上ノ演舌談話○第十六條 臨時會ハ至急ヲ要スル事件アルハ會長若クハ會員五名以上ノ請求ニヨリテ之ヲ開ク○第十七條 部會ノ規則及集會ノ期日場所等ハ部會ニ於テ之ヲ定メ支會長ノ承諾ヲ經ヘシ○第十八條 部會ノ談話討論ノ類末ハ筆記シテ支會ヘ報告スヘシ○第十九條 支會ノ資金ハ支會員ノ負擔トス○第二十條 會員出金ノ外支會ヘノ補助金及特志者ノ寄附金等ハ總テ支會ノ資金トス○第二十一條 本會會則ハ會員ノ發議ニヨリ通常會ノ議決ニヨリ之ヲ更正スルヲ得

●出雲國有志地主農談會出雲郡支部會規約

○第一條 本會ハ出雲郡内有志地主ヲ以テ組織シ常ニ本部會ト氣原ヲ通ス可シ○第二條 本會ハ出雲國有志地主農談會出雲郡支部會ト稱ス○第三條 本會ハ農事上諸般ノ改良進歩ヲ圖リ専ラ輸出米ノ聲價ヲ増進セシムルヲ以テ目的トス○第四條 本會員ヲ分ツテ二種トス一正員。但各自本郡内ノ所有地價一萬圓ニ付一ケ年金三圓迄ノ範圍内ニ於テ本會費ノ用ヲ支辨スル者一賛成員。但農事特志ニシテ本會ノ主旨ヲ贊成スル者○第五條 本郡外ノ人ト雖モ本郡内ニ地所ヲ所有スル人ハ加盟スルコトヲ得○第六條 本會ニ加盟セント欲スル者ハ幹事ノ紹介ニヨリ會員ノ同意ヲ得テ加盟スヘシ○第七條 本會ハ會長一名副會長一名幹事六名ヲ置ク會長ハ會務ヲ總括シ副會長ハ會長ノ事務ヲ補助シ會長不在ノ時ハ會長ノ代理ヲ爲ス可シ幹事ハ會長ノ指揮ヲ請ケ本會ノ事務ヲ分擔幹理スヘシ○第八條 役員ハ二年毎ニ會員互撰ヲ以テ之ヲ改選スヘシ。但滿期再撰スルコトヲ得○第九條 書記ハ會長之ヲ特撰ス○第十條 本會ハ毎年春秋二期ニ之レヲ開ク。但會長ニ於テ必要ト認ムルカ又ハ會員五名以上ノ請求ニ依リ臨時開會スルコト有ルヘシ○第十一條 本會ハ直江村ニ開ク會場日時ハ會長之レヲ定メ週クモ一週間前會員ニ通知スヘシ○第十二條 本會ノ談話ニシテ會員多數ノ同意ヲ得將來必要ト認ムル事柄ハ之レヲ農談録ニ登載シ若シクハ活版ニ付シ會員ニ頒布スルコトアル可シ。但時宜ニ依リ農學士又ハ實業熟練者ヲ聘シ其講話ヲ乞フコトアル可シ○第十三條 本會正員ノ出金ハ豫算ニヨリ前納シ之レヲ費用ニ充テ若シ不足ヲ生スルハ年末精算報告ノ際追徴シ剩餘アルハ之レヲ翌年ノ費用ニ充ルモノトス○第十四條 本會ハ時宜ニ依リ會員ノ評決ヲ經テ分會ヲ設クルコトアルヘシ。但分會則ハ其當時別ニ之レヲ設クヘシ○第十五條 本會ニ於テ試驗場ヲ必要ト認ムルハ本會ノ費用ヲ以テ之レヲ設クルコトアルヘシ○第十六條 本規則ノ更正増補ヲ要スルトキハ會員ノ協議ヲ經ルモノトス右會員協議ノ上決定ス依テ署名捺印スルモノナリ

●出雲國有志地主農談會柘縫支部會規約

○第一條 本會ハ有志地主ヲ以テ組織シ農事上諸般ノ改良ヲ謀リ輸出米ノ聲價ヲ増進セシムルヲ以テ目

農報第二號

的トス○第二條 本會ハ出雲國農談會權總支部會ト稱ス○第三條 本會ハ郡都町村部ノ兩會ニ分テ郡都會ハ各町村ノ部會々員ヨリ三名乃至五名ヲ互撰シ本會々員ニ充ツ本部會員ハ此定員ニ拘ハラズ本會々員タル權利ヲ有ス町村都會ハ該町村ニ於テ適宜ニ組織スルモノトス。但町村都會ニ於テ規定シタル規則書ハ本會々長ニ報告スヘシ○第四條 本會々員タルモノハ務メテ親睦ヲ旨トシ平素本部會及ヒ町村都會ト氣脈ヲ通シ農事上便利鴻益ヲ圖ルヘシ○第五條 本會ニ會長一名副會長一名ヲ置ク幹事ハ每町村ニ一名トシ書記ハ無定員トス。但本會々長ハ本部會幹事ヲ以テ之ニ充ツ○第六條 會長ハ本會一切ノ事務ヲ總理シ職員ノ監督ヲ掌ルモノトス○第七條 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキ或ハ欠席スルハ之ヲ代理ス。但副會長ハ本會々員之ヲ互撰シ其任期ハ滿二ケ年トシ滿期再撰スルヲ得○第八條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ町村都會ニ向テ傳達ノヲ掌リ或ハ町村會ノ景況及農事上諸般ノ事ヲ會長ニ報導スルモノトス○第九條 書記ハ會長之ヲ特撰ス○第十條 本會ハ每年春秋ノ二期トス會長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ會員拾名以上ノ請求アルトキハ臨時開會スルヲアルヘシ。但開會期日ハ會長之ヲ定メ遅クトモ一週間以前幹事ヲシテ之ヲ通知メシム臨時會ハ此限ニアラス○第十一條 本會ハ平田町ニ開ク其會場ハ會長之ヲ指定ス○第十二條 本會ハ問題ヲ設ケ談話演說スルヲアルヘシ○第十三條 本會ハ農學士實業熟練者ヲ聘シ演說講話ヲ請フヲアルヘシ○第十四條 本會々員ノ談話ニシテ將來ニ必要ノ件ハ農學士演說熟練者ノ談話等ト共ニ簿冊ニ登錄シ或ハ活版ニ付シテ會員ニ頒布スルヲアルヘシ其簿冊ハ會長ニ於テ之ヲ保管ス○第十五條 本會ノ會費ハ本部會々員ニ於テ二ケ年間ハ之ヲ負擔スルモノトス○第十六條 本

規則ノ更正増補ヲ要スルキハ本會ノ評決ヲ經ル者トス○第十七條 本會ニ係ル規則ハ本會ノ評決ニヨリ別ニ之ヲ定ム右之通議決セシニ付茲ニ署名捺印スルモノナリ

●出雲國有志地主農談會神門支部會規約

○第一條 本會ハ出雲國有志地主農談會神門支部會ト稱ス○第二條 本會ハ農事上諸般ノ進歩ハ勿論特ニ米質改良ヲ圖ルヲ以テ目的トス○第三條 本會事務所及會場ハ今市町ニ設置ス○第四條 本會々員タルモノハ平素互ニ親睦シテ氣脈ヲ通スルモノトス○第五條 本會ニ加盟ヲ請フモノハ幹事ヲ經テ會長ノ承認ヲ受クヘシ事故アリテ除名ヲ請フモノアルトキモ亦同シ○第六條 本會ハ會長及ヒ副會長各一名ヲ置キ會長ハ本會諸般ノ事務ヲ總括シ會員ヲ懇和セシムルモノトス會長事故アルトキハ副會長之ニ代ル○第七條 本會ニ幹事六名ヲ置キ會長ヲ補佐シ諸般ノ事務ヲ管掌シ且實業試驗場ヲ監督スルモノトス○第八條 會長及ヒ副會長幹事ハ第二十一條ノ資本金ニ關スル一切ノ事務ヲ管掌スルモノトス○第九條 會長及副會長幹事ハ會員中ヨリ互選シ任期ハ二ケ年トス。但無給○第十條 實業試驗委員三名ヲ置キ第七條ニ設ケタル實業試驗ニ關スル事務ヲ處理セシムルモノトス。但實費辨償トシテ一日金二十錢ヲ給ス○第十一條 實業試驗委員ハ會長ニ於テ會員中農事熱心ノモノヲ選拔シ其任ニ充ツルモノトス。但任期二ケ年○第十二條 實業試驗委員ハ試驗ノ成績等幹事ヲ經テ會長ニ報告シ且該場ノ經費ヲ計算シ其支給ヲ幹事ニ請求スルモノトス○第十三條 本會開設ハ定期臨時ノ二種トス○第十四條 定期會ハ春秋ニ開キ臨時會ハ會長ノ必要ト認ムルトキ又ハ會員三分ノ一以上ノ請求ニヨリ開クモノトス。但定期會ノ招集狀

ハ會長ニ於テ開會時日ヲ定メ週クトモ開會一週間以前ニ之ヲ發ス尤モ臨時會招集狀ハ此限ニアラス○第十五條 會員病氣故障アリテ會日ニ出席シ能ハサルモノハ其事由ヲ事務所ニ届出ツヘシ○第十六條 定期會ニ於テハ談話ヲ旨トシ或ハ農學士實業熟練者ヲ聘シテ演說又ハ講談ヲ請フコトアルヘシ○第十七條 農事改良ノ爲メ實業試驗場三ヶ所ヲ設クルモノトス。但會員ニ於テモ可成試驗場ヲ設クヘシ尤該費用ハ自辨トス○第十八條 農事上裨益アル演說談話或ハ參考トナルヘキ試驗成績等ヲ得ルトキハ印刷シテ會員ニ頒ツコトアルヘシ○第十九條 開會中必用アルモノハ書記若干名ヲ雇聘スルコトアルヘシ。但一名ニ付一日金貳拾錢ヲ給ス○第二十條 會日諸雜費及試驗場ニ關スル諸費等總テ本會實本金ノ利子ヲ以テ充ツルモノトス○第二十一條 實本金ハ一株金二圓トス會員ヨリ之ヲ募集ス○第二十二條 實本金ハ第三國立銀行今市支店ニ預ケ置クモノトス○第二十三條 實本金ノ計算諸費支出等ハ幹事之ヲ管理シ毎六ヶ月ヲ一期トナシテ出納表ヲ開製シ會長ノ檢閲ヲ經テ會員ニ報告スヘシ但出納計算上會員三分ノ一以上ノ意見アルハ臨時會ヲ開キ協議スルモノトス○第二十四條 本會事故アリテ解散スルハ實本金ヲ計算シ株主ニ返却スルモノトス但中途ニシテ退會スル者ノ實本金ハ他日解散ノ時ニアラサレハ返戻セス○第二十五條 本規約ヲ更正セント欲スルハ必ス總會ニ附シ協議スルモノトス

●出雲國有志地主農談會松江支部會規約

○第一條 本會ハ市内有志地主ヲ以テ組織シ常ニ出雲國有志農談會ト氣服ヲ通スヘシ○第二條 本會ハ出雲國有志地主農談會松江支部會ト稱ス○第三條 本會ハ米穀ニ關スル諸般改良進歩ヲ謀リ専ラ輸出米

ノ聲價ヲ増進セシムルヲ以テ目的トス○第四條 本會ハ會長一名幹事三名ヲ置ク會長ハ會務ヲ總括シ幹事ハ會長ヲ補助ス○第五條 會長幹事ハ二年毎ニ會員互換ヲ以テ之ヲ改換スヘシ但滿期再換スルコト得○第六條 本會ハ毎年春秋二期ニ之ヲ開ク但會長ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時開會スルコトアルヘシ○第七條 本會々々場ハ會長便宜之ヲ定メ週クモ一週間前會員ニ通知スヘシ○第八條 本會ノ談話ニシテ會員多數ノ同意ヲ得將來必要ト認ムル事柄ハ之ヲ農談録ニ登載シ若クハ活版ニ付シ會員ニ頒布スルコトアルヘシ但時宜ニ依リ農學士又ハ實業熟練者ヲ聘シ其講話ヲ乞フコトアルヘシ○第九條 本會ニ加盟希望ノモノハ幹事ノ紹介ニ據リ會員ノ同意ヲ得テ入會スヘシ○第十條 本規約ニ於テ更正増補ヲ要スルトキハ會員ノ協議ヲ經ルモノトス右會員協議ノ上決定ス

●秋鹿郡ハ郡内別ニ一會アリテ側ラ支會ノ事務ヲ取扱フモ單ニ支會規約トシテ無之ニ付除之

明治二十七年十月十一日印刷
明治二十七年十月廿五日發行

(非賣品)

島根縣松江市北堀六番地

編輯兼發行者

小倉 鉄太郎

島根縣松江市内中原百四十番地

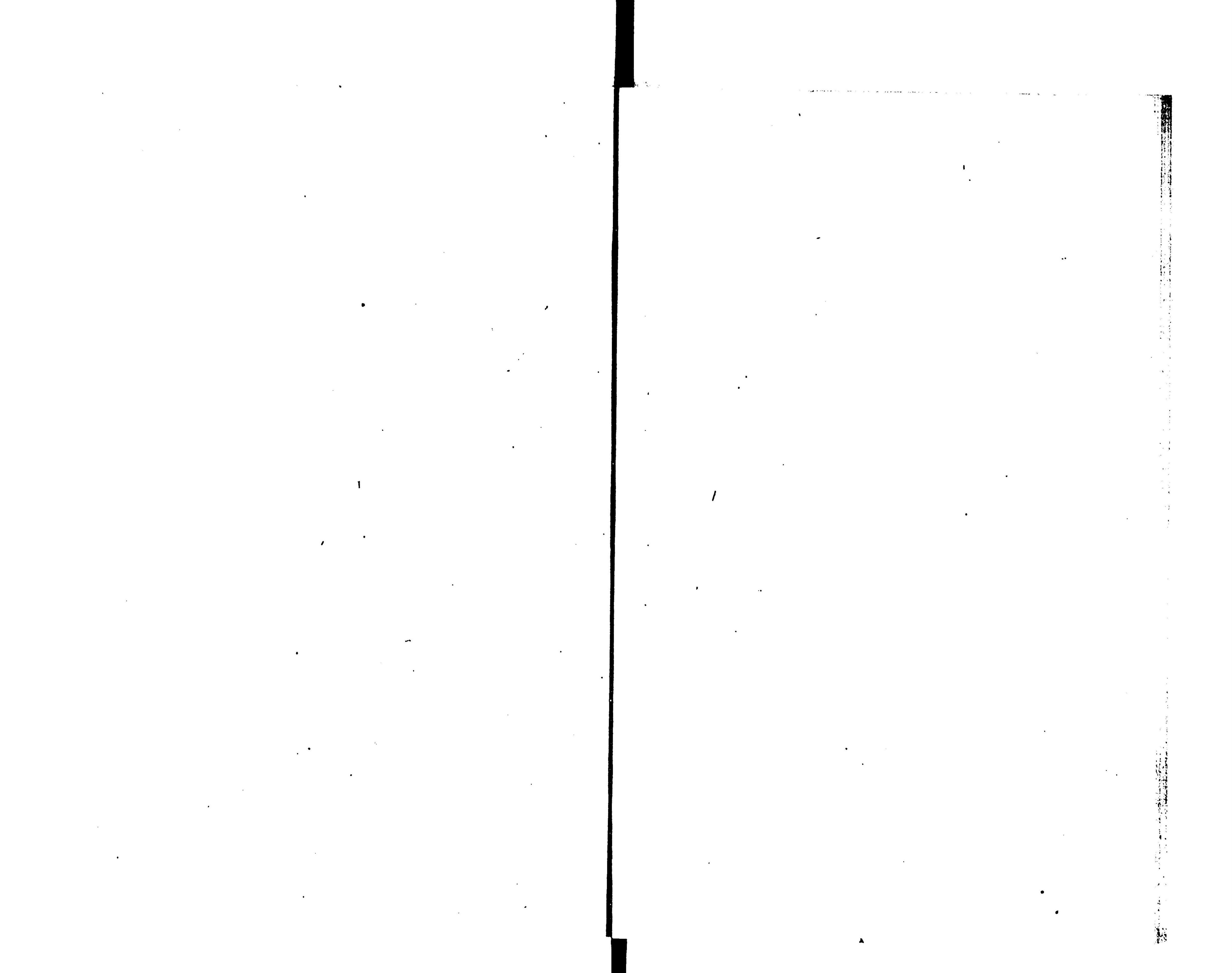
印刷者

勝部 修

島根縣松江市白潟本町五十八番地

印刷所

白潟活版所



1
2
3

農報 第2号

国立国会図書館